LLB

LONG LIFE BOX

日本のベーシックハウスを考える

SINKEN STYLE
Concept Book

LONG LIFE BOX
日本のベーシックハウスを考える

LONG LIFE BOX

日本のベーシックハウスを考える

SINKEN STYLE
Concept Book

お陽さまのつぶやき

世の中のほとんどの家は、道なりに建っている。
それぞれの道は、そこに通る理由がちゃんとある。
が、それは、あっちへ向かったり、
こっちへ向かったりしている。
なのに人はなぜか、
その道を扱りどころに家を建ててきた。
だれもそのことに疑いをもたず・・・。
いつの間にか、それが世の習いになって、
家々は道なりに建ってしまった。

と、ある時から、シンケンはお陽さまが気になった。
春、夏、秋、冬、ずっとその動きを見ることにした。
そして、東から出て西に沈むと思っていたお陽さまが、
冬と夏ではずいぶん違う方から「お出ましになり」、
ずいぶん違う方向へ「沈んでいかれる」ことを知った。

シンケンは真剣に考えた。

冬のお陽さまは歓迎し、
朝と夕方は真横からたっぷりと入ってもらうことを。
夏のお陽さまにはご遠慮願い、
窓の配置や葉の繁った大きな樹で日射しをよけようと。

そんな住まいづくりを始めて何年も経った。
シンケンスタイルの住まい手たちは、
そんなお陽さまのことをよく理解して、
日々豊かな恵みに浴している。

かくしてシンケンはそんな住まいを建て続けた。

お陽さまを拠りどころにした住まいは数を重ね、
まちのあちこちで見かけるようになった。
初めは、ちょっと不思議に思われた佇まいも、
少しずつ人目に触れる機会が増して
親しまれてきたように思う。

そのことを、空の彼方からずっと眺めていたお陽さまが言った。
「あの住まいたちは、わたしのことをよく分かっているね。
わたしが強く、激しく当たるときは、固く閉ざし、
柔らかく、やさしく当たるときにはいっぱいに開いて
奥の奥まで迎え入れてくれる。
こんなにまでわたしの動きを分かっているなんて、
ひまわりみたいだね。
冬はほんとうに暖かそうだし、
夏は涼しそうだね」・・・と。

日本のベーシックハウスを考える

CONTENTS

お陽さまのつぶやき 002

LLBとは 009

LLBのライフスタイル

事例1 **土地を読む／ワゼットスタイル** 017
事例2 **親と子の成長空間／内野さん宅** 033
事例3 **永く住む／カジキ商店** 047
事例4 **無二の住まい／湯楽庵** 063
事例5 **自然に寄り添う／前田さん宅** 079

LLB 12の方法

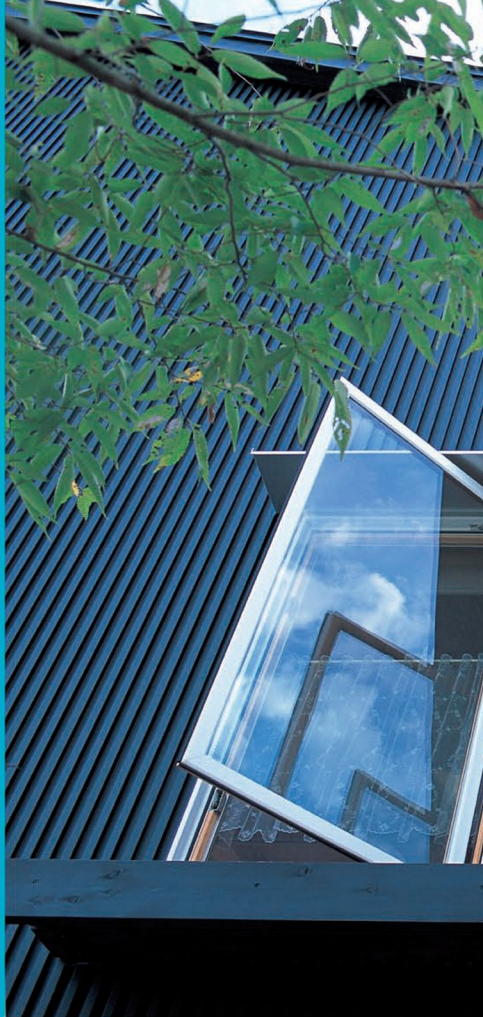
01 敷地と住まいの関係 026／ **02** 庭のかたちと緑 030／
03 開放的な屋内 042／ **04** 参加型キッチン 044／
05 住まいの骨組み 054／ **06** 骨組みをつなぐ金物 058／
07 シンケン・オルスタズ 060／ **08** 快適トイレとサニタリー 072／
09 木の香りの浴室 074／ **10** 暮らしに合わせた収納 076／
11 テラスという第2リビング 088／ **12** ソーラーシステム 090

住み手からの暮らしを楽しむメッセージ

コラム◆地元の食に、ひと工夫加えて 025
コラム◆奄美の海の釣りの醍醐味 041
コラム◆カジキ商店の、鹿児島オススメ芋焼酎 053
コラム◆湯の里、指宿温泉案内 071
コラム◆自然との付き合い方 086

シンケンスタイルはコミュニケーション

シンケンスタイルソーラータウン 096
建てる前に 102
モデルハウス／ホームページ／完成見学会／
バスツアー／住まい教室
建てるのが決まったら 110
建てた後は 112
お陽さまが見たシンケンスタイル 127



BOB
BOB

LONG LIFE BOX

LLBとは

シンケンはこれまで
多くのお客さまとの住まいづくりの中で、一つひとつの仕事のあり方に
「なぜ」、「どうして」を繰り返してきました。
そしてその住まいづくりは今までの方法にこだわらず、
シンケン流の考え方やかたちをもって、独自のスタイルとして築き上げてきたものです。
その考え方の根っこには、住まいを建てるお客さまに好かれること、
使いやすくて美しく、居心地のいい住まいになるよう情熱を注ぐこと、
そして同時に環境への思いやりという視点を忘れないこと、この3つが柱となっているのです。
そんな考え方の上に、LLBの住まいができてきました。LはLongとLife、BはBoxの略です。
スタッフ一人ひとりが、この意味をかみしめて、日々の仕事に取り組んでいます。
お客さまに満足していただき、だれが見ても美しく、
しかも周りの環境にしっくり馴染む住まいになることが、
私たちの喜びであり、誇りになるのです。

ONG

ロング／Long
永く住み続けるための知恵

耐久性のある建物構造をもち、
品質の確かな材料を採用することはもちろんのこと、
住んでいる人に好かれ、愛着がもってもらえるようにすることも、
たいへん大切な要素と考えています。
住んでいくうちに、家族が成長して使いづらくなったり、
きらびやかな装飾が最初は気に入っていたけど飽きてしまったり、
周りの家が迫ってきて部屋に日照が入らなくなったりと、
長い年月が過ぎると、いろいろな状況が起こってくるものです。
そうした変化にも対応できる住まいにしたいと、考えています。

IFE

ライフ／Life
楽しく豊かに生きるための工夫がいっぱい

住まいは、だれにとってもいちばん身近で、
身体と気持ちを解放できるプライベートな空間となります。ですから、
単に十分な広さがあるとか、最新の設備が揃っているといったこととは、
比べられない価値があると考えます。
家族がいつも和やかになれたり、季節ごと、時間ごとに居心地よい場所があったり、
自由に使えるスペースや庭に植える木々のプランなど、
一人ひとりの生活そのものが楽しくなるような住まいを考えています。

OX

ボックス／Box
3階建てにも対応する、高性能で頑丈な器

気持ちよく暮らすための住まいは、生活に必要な設備さえあれば、
その他のスペースをなるべく自由に使える方が良いのです。
ここは誰々さんの部屋だとか、
ここは寝るだけの部屋だとか、はたまたここはお客さまの部屋だとか、
いろいろな使い方を限定するような部屋をたくさんつくっても、
今までの経験上、そのうち使わなくなることもでてきます。
シンプルで気のきいた「箱」に多様性をもたせることで、
住まいの変化を楽しみつつ、愛し続けるきっかけになると思うのです。

B

日本の住宅の寿命が、欧米に比べてきわめて短いのは周知の通りです。

国内の住宅のストックの数を、その年に建てられた新築数で割った数字を見ると、日本では30であるのに対して、ドイツでは79、アメリカでは103、イギリスでは141となっています。

この数字がそのまま住宅の寿命を表しているわけではありませんが、各国の住宅寿命の比較にはなります。

日本の住宅は、なぜこんなに早く壊されるのでしょうか。

そのいくつかの理由の中でも特筆すべきは、日本の多くの住まいが20年もしないうちに陳腐化してしまい、物理的な耐久性とは何ら関係のないところで壊されることがほとんどだ、というのです。住まいづくりの思想に大きな問題があるように思われます。

居心地のいい場所をつくることが住まいづくりの原点です。住まい手が長い間気に入って住み続けたいと思うこと、そして住みこなせる計画になっているかどうか、が住まいの寿命に大きく関係しています。

シンケンの新しいスタイル、ＬＬＢの住まいづくりは、時間の経過を視野においてプランニングや素材の選択を熟考することを、とても重要な事柄として、一軒一軒に思いを込めて、つくり続けています。

読む土地を

01

LLBのライフスタイル

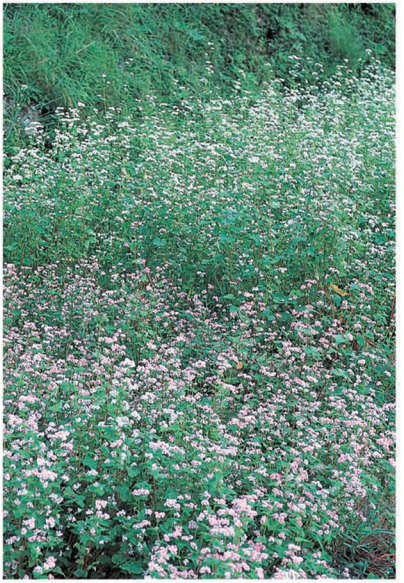
ワゼットスタイル

山に囲まれた細長い田んぼが、
とっても素敵な場所に変身しました。
深い緑を背景に、小川のせせらぎの先に見える
赤い建物「ワゼットスタイル」。
1階は軽食やティータイムが楽しめる
カフェスペースが広がります。
ワゼットスタイルは、ここに建っているからこそ価値をもつ
魅力がいっぱいのカフェ兼住宅です。

ワゼットスタイル入口の表示は、さりげなくついている

アプローチから歩くと、緑に囲まれた赤い建物が見えてくる

アプローチ脇のそば畑。満開の花でお客さまを迎える



カーブの多い山道を車で分け入っていくと、道ばたに気が付かないほどの小さな看板が立っていて、脇をふっと横にそれた途端……、使い古された言葉だけれど「絵のような」世界が待っていた。

目にしみるような深い緑に囲まれて、真っ赤な屋根とレンガ色の外壁のＬＬＢが映える。どうやら奥にはきれいな芝生が広がっているようだ。右手にはカエルの鳴き声が満ちる淵がある。なんだかワクワクした気分で、澄んだ水のせせらぎに渡された木のブリッジを歩いていった。

「ワゼットスタイル」は西中間さん夫妻が長年夢に描いていたカフェであり、彼らの理想郷である。店名のＷＡＺＥＴＴ（ワゼット）とは北欧の言葉を元に、鹿児島の言葉「わっぜー＝すごく」をかけ合わせたもので、「とってもいいところ、気持ちいい○○」という意味が込められている。

長年あたためてきた夢を、市来で実現

ご主人の剛さんは地元の市来出身で、貴子さんは千葉出身。同じ会社に勤めていた2人は、剛さんの鹿児島転勤を機に結婚しこの町に戻ってきた。当時、剛さんのお父さんの定年後の計画として、田んぼだった敷地にゴルフ練習場を建てる話があったが、貴子さんはその傍らに小さなカフェをつくりたいと考えていた。「ゴルフはお父さんと主人共通の趣味で、カフェは私の夢。それ

緑の濃い山々に囲まれて佇むカフェ兼住まいのワゼットスタイル。広大な庭には、水路を利用したせせらぎと池をつくっている

を合わせれば相乗効果が生まれると思ったんです。これまでと違う新しいスペースをつくれば、楽しみ方も広がってくるはず」と貴子さん。時代はスローライフ、自然回帰へ向かっている。今、ここにしかない時間と空間の中で、旬の材料でつくった食べ物を心の底から味わい、幸せな気分に浸って欲しい。地元の人が自慢できるような、「あのカフェがあるから市来に行こう」と他の地域の人も来てくれるような、そんな場所にしたい。縁あって暮らすことになった市来町で、「ここならそれができる」と貴子さんは確信した。

ふつうの家なのに、カフェみたい

料理は昔から大好き、お菓子作りも大好き。お茶の勉強、コーヒーの勉強、さらに経理を学び、起業家セミナーを受講……。貴子さんは店づくりに邁進していった。そしてご両親もそんな彼女の夢に共感した。「鹿児島に来た頃は、シンケンという名前もまったく知らなかったんですけど、ある日県庁の展望レストランで食事をしていて、偶然、与次郎ヶ浜のモデルハウスを発見したんです。上から双眼鏡で見ていたら、太陽の光を浴びてシャキーンと斜めを向いている変わった家が2棟ある。〝あれはナンダ！〟って（笑）。運命の出会いでしたね」。

その足でモデルハウスに行った。中に入ってみると板土間が広がっていて、スタッフがデザートとお茶を出してく

2階の住まいから1階カフェを見下ろす

1階カフェのオリジナル木製建具を開け放つと、大きな開口部で外部とつながる

西中間さん夫妻
剛さんもいつかはカフェを一緒に運営したい

店内北側のカウンター席。ここからは青々とした芝生と山並が望める

池側からみたカフェ。東と南側には張り出したテラスがあり、テーブルやイスを出せば外でもお茶が楽しめる

れて、「もうこれで十分カフェじゃない！」と大喜び。実はゴルフ練習場を主体とした建築計画は、他の工務店に依頼してかなり進んでいたのだが、カフェのイメージがうまく伝わらず、もうやめようかという話までできていたのだ。

シンケンに魅了された夫妻は思い切って計画の見直しをする決意を固めた。そこで、現地に案内された迫社長が涼しい顔で言ったのが、「ネットを張らずに芝の庭をつくり、そこでゴルフを楽しめるような新しいタイプの練習場にしましょうよ」の一言。話は思わぬ方向に進んでいくことになる。「ここは田んぼだった湿地なので、排水をどうするかについても悩んでいたんですけど、迫さんは一目見て〝ここに池をつくりましょう〟と、まったく逆の発想をした。あれには驚きました」と剛さん。

土地がもつ魅力を発見

入口からずーっと入って来てはじめて全貌が見えるように、建物は敷地の中ほどに配置しましょう。池の上にはブリッジをつくりましょう、ただ整地するのではなく斜面に雑木を植えて、自然の中に佇む家をつくりましょう、と、次々繰り出される迫社長の提案によって、どこにでもある山と田んぼが

外壁の濃い赤茶色が、周りの水辺や木々の緑の中で個性的に存在を主張する

池をまたいだ先にもテラスデッキがあり、別の角度から庭が楽める

開放感いっぱいの池に面したデッキ席

どんどん姿を変えていった。「それまで私たちはこの土地がもっている魅力に全然気づいていなかったんです。環境全体の良さが見えていなかった。建物ができて初めてここは〝すごくいいところ〟になったんです」。最初は建物についての要望を細かく出した夫妻だが、そんな迫社長の様子を見ていて、途中でふっと力が抜けた。「第一、社長はこちらの言うことを聞いていそうで聞いていない(笑)」。いや、聞いた上でもっといいものにしようとするから最終的に出てくる形が要望通りとは限らない、ってことだ。「不安もありましたよ。特に真っ赤な屋根が出現したときには、これじゃまずいだろう!と大騒ぎ。〝壁を塗ったらまた感じが変わりますよ〟って言われたんですけど、塗ったら壁も赤かった(笑)。元々黒のイメージがあったので、あまりにも周囲から浮いた色でびっくりしてしまって……」。

ところが、デッキの色を塗って、アプローチができて、だんだん全体が見えてくると、その赤がとても良く思えてきた。冬から春になってあたりが新緑に染まる頃には、やっとその色の意味がわかった。「思ったとおりの」じゃなくて、「思いも寄らなかった」ものができる喜びがそこにあった。

待ちに待ったプレオープン。シンケンの見学会を兼ねてお茶とケーキを出して、6日間で800人の人がここを訪れた。今はその時の見学者がお得意さんとして新たにお客さんを連れてきてくれる。「最近気が付いたんですけど、

建物に明かりが灯る夕暮れ時になると、昼間とは違った風情を感じさせる

シンケンの建物を好む人がワゼットスタイルの望むお客さま像でもあるんですね。一言で言えば〝暮らしに対する意識が高い〟ということ。自然が好きで、気持ちに余裕がある、自分の暮らしを大事にするから人に対しての気遣いもある」と貴子さん。

夢と幸せがここから広がる

お客さんは「この前はこっちに座ったから今度は向こうに」とコーナーごとに違う雰囲気や窓から見える景色を楽しんでいる。雨の日には池に広がる波紋を、夏はカエルや虫の声、泳ぐ小魚、秋風の匂い、デッキに映る影、吹き抜けに響く音楽……、高速道路からほんの5分入っただけで、こんなにも日常から遠ざかれるという驚き。ぼーっとくつろいでいると2時間、3時間がうそのように過ぎていってしまう。「ゆくゆくはパン窯をつくってオリジナルのパンを焼きたい」というのが二人の夢。初夏には蛍を見る会を企画しよう、それから別荘にいるような感覚で1日を楽しめる貸し切りプランもいいね、なんて夢はどんどんふくらんでいく。剛さんのご両親も庭と畑の管理をしながらしみじみと「いい家だねぇ」と言ってくれる。

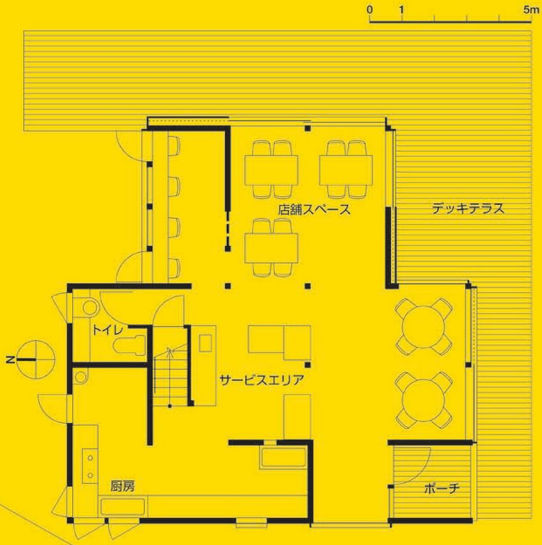
自分たちがいいと思う暮らしのスタイルを一つひとつ実現させて、それ自体を楽しんでもらうという試み。幸せの輪がここから広がっていくのだ。

D A T A

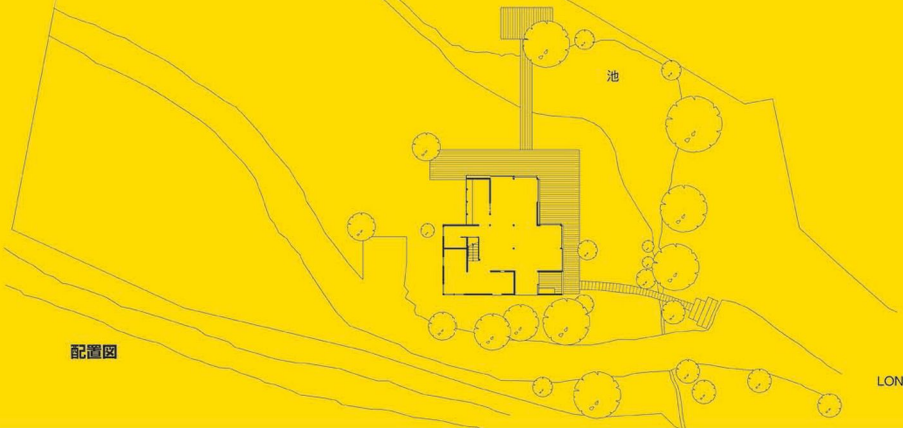
建築概要
ワゼットスタイル

所在地　鹿児島県日置郡市来町
敷地面積　7883㎡
建築面積　84.96㎡
延床面積　120.96㎡（1階80㎡、2階40.96㎡）
用途地域　無指定
家族構成　夫妻2人
竣工　2002年12月

主な外部仕上げ
屋根　ガルバリウム鋼板横葺き
外壁　杉縦目板押さえ張り　リボス（カルデット）塗装
建具　マーヴィン（インテグリティ）
デッキ床　米ヒバ目透かし張り　リボス（カルデット）塗装
主な内部仕上げ
床　構造用パネル　リボス（アルドボス）塗装
壁　プラスターボード　デュブロン塗装
天井　構造用合板あらわし（無塗装）



1階平面図



配置図

住み手からの
暮らしを楽しむ
メッセージ
1

地元の食に、ひと工夫加えて

西中間貴子さん

開店当初はお茶とお菓子だけのつもりだったのですが、お客さまの要望で後から軽めの食事メニューを加えました。それが「キッシュプレート」と「本日のお皿」です。お菓子はショートケーキ、焼菓子などを常備しています。手作りのお菓子や料理は季節ごとに少しずつ変わりますが、お店で出す食材のほとんどは地元の野菜を使っています。ちょっと車を走らせば、野菜の無人スタンドがあって、いつも旬の野菜が置いてありますし、直売店もありますので、ささっと、そういうお店をまわって、おいしそうな野菜を選んできます。こちらの地域では、夏にはヘチマなんかもよく並んでいます。地元の食べ方があるんですけど、ワゼットスタイル流の料理法はないかと研究中です。たとえば鳥肉料理ですと、こちらでは醤油味の煮物がスタンダードなんです。それでお義母さんに、作り方を教えていただいたんですが、その味付けにひと工夫加えて、ゼリー寄せをつくってみました。「本日のお皿」で出したら、好評でしたよ。お店では、昔からの料理をそのままだすのではなく、別のおいしさや新しい味わい方を提供できればと常に考えています。そうした試みがお店をやっていく楽しみのひとつでもあります。

アプローチの横にあるスペースには、わずかですけれどブルーベリーやそばなど、食べられるものを育てて料理に使っています。より身近で、安全で、しかもおいしい食べ物をいつも出せたらいいなと思っています。（談）

ケーキ作りはいつも真剣そのもの

キッチンになくてはならない洋酒や調味料

かんたんオススメレシピ

ワゼットスタイルのデザート
ブルーベリーのレアチーズデザート

チーズベースのさっぱり味のムースです。
庭になったブルーベリーのソースを添えていただきます。

ブルーベリーソース
材料：生のブルーベリー100g、水50cc、白砂糖大さじ2
作り方：材料をすべてナベに入れ、中火で水気がなくなり、とろみがでるまで煮詰める。粗熱をとって、冷やしておく。

チーズムース
材料：板ゼラチン8g、白ワイン大さじ1、クリームチーズ200g、グラニュー糖80g、プレーンヨーグルト100g、生クリーム200g
作り方：板ゼラチンを水でふやかし、ワインに浸して30秒電子レンジにかけて溶かしておく。クリームチーズは室温で柔らかくして、泡立て器でグラニュー糖と擦り混ぜる。しっかり混ぜたら、ヨーグルトと生クリームを入れさらに混ぜる。これにゼラチンを入れて混ぜ、ソースで煮ておいたブルーベリーと混ぜて冷蔵庫で冷やす。固まったらスプーンですくって皿に盛り、冷やしたブルーベリーソースをかける。

敷地と住まいの関係

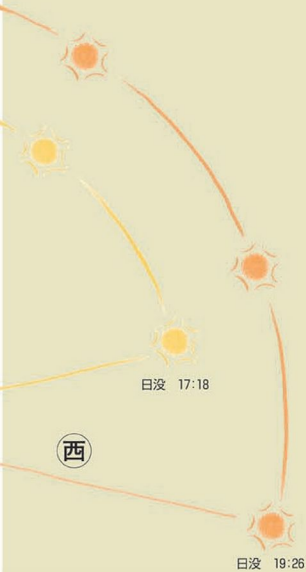
太陽の位置と住まいの関係

シンケンのつくる住まいは、常に居心地のいい場所に思いをめぐらせ、それをどうやってかたちにしようか、どういう住まいがいちばん気持ちよく暮らせるのかを念頭に仕事を進めています。ですからまず、それぞれの敷地をよく見てみます。敷地の周りにある道の幅や位置、隣家の建て込み具合やかたち、住まいから眺められる緑地や景色の状況など、いろいろな条件を検討して、その場にふさわしい「馴染みのいい住まい」をつくりたいと考えています。

あまり意識しないかも知れませんが、わが家とよぶ住まいは、いやでも毎日毎日目にするものです。部屋の中だけでなく住まいの外観も常に目にしますから、「美しいな」とか「カッコいいな」とか「気持ちいいな」って思いながら見ることができるようにしたいと思っています。

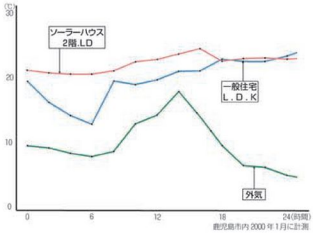
シンケンの住まいづくりの原点は自然です。そして、太陽は自然を掌る万物の源。そのことを深く意識して、住まいづくりに活かす。それがシンケンスタイルです。ふつうの住まいと比較すると、少し様子が違うように見えますが、それは太陽の軌道や日の出、日の入りと深く関係してきます。敷地がどんな形状であったとしても、住まいと窓の位置やかたちは、寒い冬こそたっぷり取り入れたい太陽の熱を効率よく利用できるように配置します。また強い夏の日射しには、窓にスクリーンをつけたり、庭に落葉樹を配して、上手にかわすようにしています。樹木はこうした日射しの調整とともに、住まいをその土地にしっくり馴染ませるのにも、たいへん大きな効果があります。

それぞれの住まいに植えられた樹木が大きく育てば、街は潤いのある緑に染まるはずです。住まいの中の居心地がいいこと、そして暮らす街の居心地がいいことは、こんな風につながっていきます。



建物の向きを最大30度西へふった場合

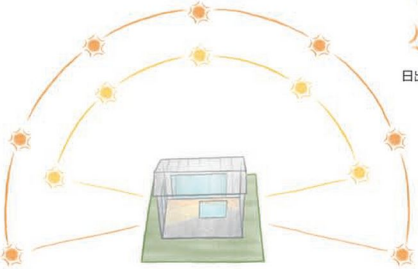
冬は日の出の時間から、東側の窓に日が射し、
日の入りまで南側の窓でキャッチする。
夏は北側の窓から日が入り、
夕日は西面の壁で遮る。

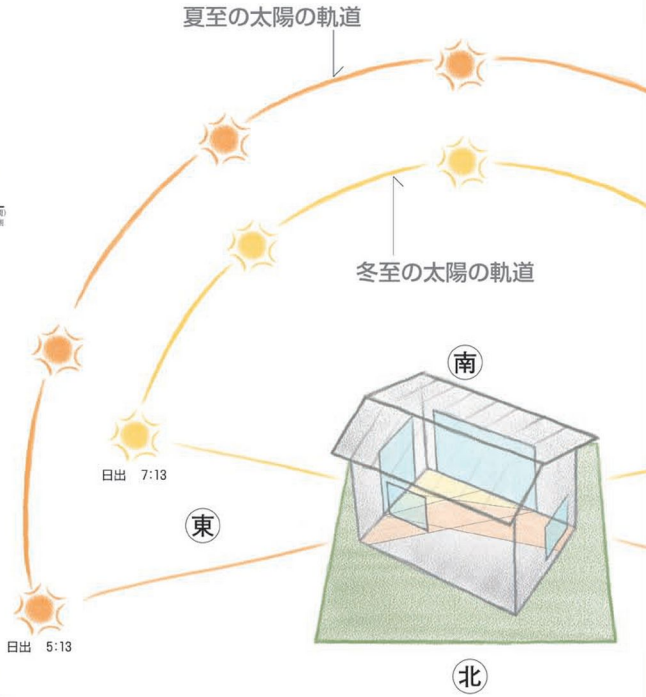


戸外と室内の温度変化
グラフは冬季の外の温度と、一般的な暖房を入れた住宅、ソーラーを入れたシンケンの住宅の室内の温度変化を表しています。ソーラーシステムのある住宅は、室内の温度が外気温にあまり左右されないことが分かります。

建物の向きを方位に合わせた場合

冬の朝日は東側の窓から入るが、
夕日は西側の壁で遮られてしまう。
西側に大きな開口部をつくると、
冬の日射しも入るが、
夏の強い日射しも入ってしまう。



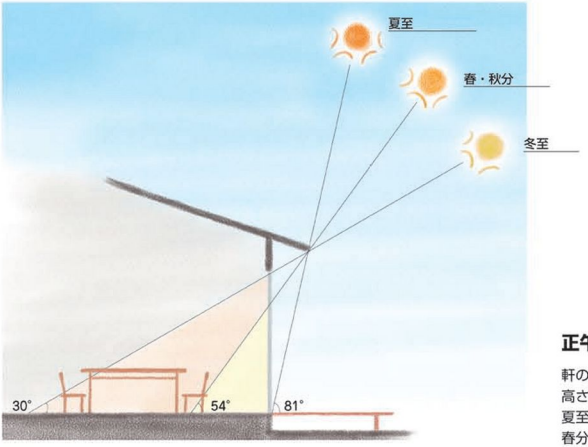


日射角度と時間

太陽の高さは季節によってかなり違ってきます。この違いは住まいの中に入ってくる日射しの長さに関係するのですが、いちばん日が高くなる夏至といちばん低い冬至とでは、入射角度が約50度も開きがあります。加えて日が出ている時間もずい分変わります。真夏の日射時間は約14時間、真冬は約10時間と約4時間の差があるのです。

夏の直射日光はなるべく避けたいし、特に強い西日を室内に入れてしまうと、居場所がなくなってしまうほど家の中を暖めてしまいます。反対に冬では、なるべく家の中に日が入るようにしておけば、夕方過ぎまで自然の熱で住まいを暖めます。

窓の大きさやかたち、位置、屋根の向き、庇の長さなどは、こうした季節による太陽の位置や角度によって決めていくことで、居心地がかなり変わってくるのです。



正午の日射しの角度

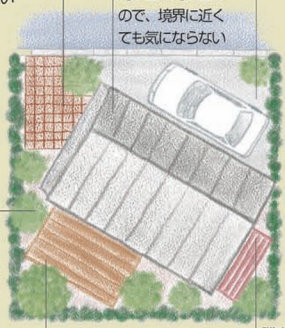
軒の出を60cmにしておくと、
高さ2mの開口部の場合、
夏至のお昼ころの直射日光はほとんど入らず、
春分、秋分時期で0.8m程度、
冬至になると約2.7m奥まで
日が入ってくる。

ソーラーパネルののったシンケンの住まいは、
周囲の家々とは異なったコンセプトで
建てられている

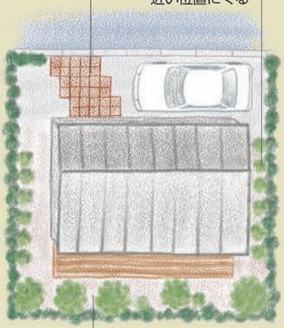
庭のかたちと緑

庭は住まいと一体のものとして考えます。植える樹木の種類や大きさ、配置によって、住まいの印象や美しさはまったく違ってくるからです。バランスを考えて植えた1本1本の木にはそこにある理由がちゃんとあるのです。たとえば庭の南側に大きな落葉樹。この木は葉の繁った夏に強い日射しを遮り、葉が落ちる冬には日を住まいの中へ通すことになります。また、お隣の家との間に植えた常緑樹は、双方の視線が合わなくてすむ緑の塀になります。よく使う樹木の種類は、カツラやモミジ、ケヤキ、ヤマボウシ、ハナミズキなど雑木林にあるような木です。こうした落葉樹は、瑞々しい新緑や色とりどりの開花、目に鮮やかな紅葉など四季折々の変化に富み、身近な自然が楽しめます。

シンケンの住まいはお隣の住まいと平行にならないものが多く、四隅に三角に近いかたちのスペースがよくできます。こうした三角の空間は、横長で長方形のものより大きな木を植えたり、庭に奥行きを出すときには、とても有効に活用できます。



境界線に平行に建てない場合



敷地境界線に平行に建てた場合

庭の緑が住まいの内と外に
豊かな表情と彩りを添える

四季折々の庭の風情が心を満たす

親と子の成長空間

02

LLBのライフスタイル

内野さん宅

子どもたちのために、
早く「わが家」をもちたかったという内野さん。
隣家や上下階に気がねなく走り回れ、
多少キズがついても気にならない、
そして、夫の和久さんの趣味スペースを確保し、
妻の章子さんのピアノ教室が開ける、
さらに家族とその友だちが集まり、
ワイワイ楽しめる「わが家」を建ててしまいました。

塀のない住まいの玄関まわり。手前が公道、正面シンボルツリーの奥、白い壁のところが玄関

出来たてホヤホヤの家が建ち並ぶ丘の上の新興住宅地。敷地面積はどこもだいたい50坪前後だろうか。車を走らせていると同じような表情のファサードが何軒も続く。そのいちばん奥、高台の端に建っているのが内野さんのお宅。近づいてくるとそこだけ漂う空気が違うので、言われなくてもすぐにシンケンの家が建っているとわかる。

道路からややセットバックさせた門も壁もないオープンなポーチ、緩やかな枕木のステップの脇にはイチョウの木が枝を広げていて……「他の家とは全然違うんだけど、不思議とまわりに調和していて、なんだかすごくいい感じ」。内野さんも、そんな「いい感じ」につられて、ついつい飛び込みでシンケンの見学会に参加してしまった一人である。「たまたま通りがかって入ってみたら最初はびっくりしました。壁紙がない！廊下がない！って。でもそれは違和感というより〝好感〟でしたね」と和久さん。

子どもの心に、「わが家」を贈る

転勤が多いためこれまでずっと賃貸住宅に住んできたが、結婚当初から子どもが小学生になる頃には家を建てようと決めていた。自分もそうだったように「ここがわが家だ」と思えるような場所を早く定めてやりたい、という意識があったからだ。「見学会の後に何軒か続けて見学して、ソーラーシステ

玄関側からみたダイニングキッチン。東側は高い建物などがなく、見通しがよい

レッスン中の章子さんと生徒さん。建具を閉めればピアノ室は閉じた空間になる

南側からみたリビングダイニングキッチン。左ソファの後ろがポリカーボネイトの引き戸。左奥がピアノ室

ムの知識なんかがついてくると深みにはまってしまうんですよ(笑)。住宅展示場にも行きましたけど、他のメーカーの家を見るのはシンケンの良さを再確認するために、比べるために行くようなもので」。どんどん気持ちが高まって、すぐにでも建てよう!と決心したのは3年前。ところがその時、和久さんには次の転勤が待っていた。のんびりしたシンケンの営業マンに「内野さん、そうあせらずに帰って来てからゆっくり考えましょうよ」と諭され(?)、奄美大島に勤務すること2年。春先に戻って、ゴールデンウィークにはもうプランをお願いしていた。ちょうど長女の碧(あおい)ちゃんが小学1年生になる前の年。計算されていたかのようにベストタイミングだった。

ピアノ室とリビングの、ゆるやかなつながり

家を建てるにあたり、もうひとつ大事なテーマだったのは、章子さんのピアノ教室を開くということ。以前はヤマハの教室で講師をしていた章子さんは、長年自分の教室をもちたいと願っていた。ただ、問題は場所をとるピアノ室を全体の中にどう配置するか。そこで、夫妻はあえてピアノ室をリビングと一体になるようにして欲しいと希望した。「別にすると、教室の時間以外はデッドスペースになっちゃうでしょう。リビングの中にあれば、ふだんは自分たちのスペースの一部になると考えたんです」。その希望に沿って出来

9坪ほどあるロフトのスペースは、それぞれの生活にゆとりをもたらしている

2階の子どもたちの机が置いてあるスペース

上がったプランは、柱と階段を中心にした田の字型の一角をピアノ室として、教室側とLDK側とを半透明のポリカーボネイト製引き戸で柔らかく仕切るというもの。教室の時間以外はこの引き戸を開け放しておけば、ワンルームの隅にピアノが置いてあるという雰囲気になる。また、ピアノ室にはさらに断熱材入りの板戸を設けてあるので、閉め切ってしまえば音も気にならない。「防音に関しては、いちばん気にしたところです。でも住まいの性能がいいので、外に音は漏れていないようですね」と章子さん。LLBは壁パネルも

階段で遊ぶ碧ちゃんと拓海くん
よじのぼったり、ぶらさがったり、
シンプルなつくりの階段は格好の遊び場に

内野家のキッチンは、明るいフルオープン。4方向から使える大きな作業台は家族みんなで料理が楽しめる

木製サッシのペアガラスも高気密・高断熱なので、特に防音を意識しなくても自然と遮音性の高い部屋ができてしまう。「ポリカーボネイトの引き戸は提案していただいて付けたんですけど、大正解でした。中が散らかっていても気にならないし、なんとなく人影は見えるし」と章子さん。教室のクリスマス会の時は全部開け放し、リビングまでオープンにして盛り上がったそうだ。

家族それぞれに、うれしい居場所

2階の子ども室は、今のところ碧ちゃんと5歳の拓海君が机を並べてワンルームで使っているが、後々どうするかは子どもたちに任せるつもり。将来、彼らがどんな風にするか見るのも楽しみだ。そして、その子ども部屋を吹き抜けから見下ろせる3階は、和久さんの「男の隠れ家」となっている。窓際の一角には趣味の釣り道具がところ狭しと並べられ、屋根裏には今年の獲物、大物の魚拓がバーンと張ってある。子育てとピアノ室がテーマ、と聞いた気がしたが、やっぱりちゃあんとお父さんの居場所も確保されていた。

もうひとつ、和久さんの夢が実現されたところと言えば車庫とデッキが隣接している点。「僕がやりたかったのは、デッキで釣り仲間と宴会を開くことだったんです」と和久さん。当初から「車の似合う家に」と希望していたが、「車からクーラーを出してすぐに魚をさばけると便利でしょう」とうれしい提案

釣りあげた魚をデッキでさばく和久さん

住まいの南側には、ベランダと大きなテラスがおかれている

道路側カーポートの奥はテラスデッキにつながる

をしてくれたのは迫社長。デッキにシンクを付けるという願いも叶えられて和久さんはご満悦である。デッキは第2のリビングとして、そして宴会場として、夏場は特に活躍しているそうだ。

「家ができてみて思うのは、ピアノのおかげで他の部分が凝縮されて、リビングとキッチンが離れてなくてよかったということ。人を呼ぶのが好きなので、友人が集まるとアイランドキッチンの良さが生かされているな、と思います。僕だけソファでゴロゴロしているわけにいかないというのが計算外でしたけどね(笑)」。

親も子どもも一緒になって真剣に遊んで、いろんな体験をして、コンパクトな家の中には変化に富んだ家族の毎日がぎっしり詰まっている。「夜、子供を寝かせた後で2人で外に出て、いい家だよなぁ！なんてしみじみ眺めることがあるんですよ」と照れ笑いする内野夫妻。5年後、10年後、子どもたちの成長と共に味わいを増す家を、どんな思いで見ているだろうか。

友人一家を招いて、午後テラスデッキでホームパーティーを開く

D A T A

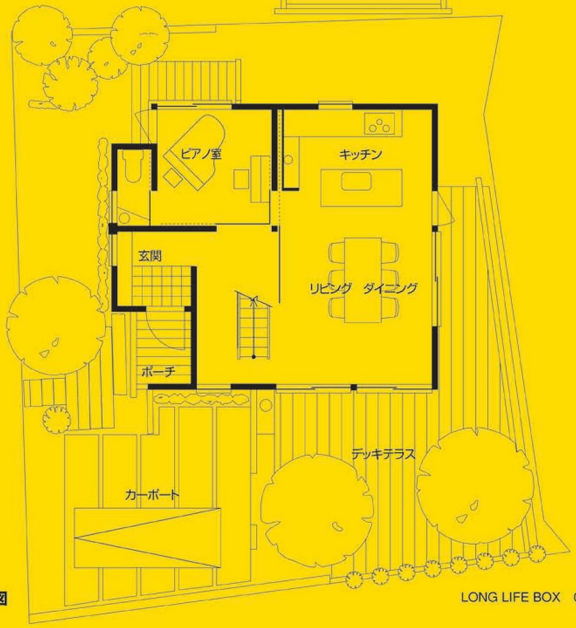
建築概要
内野邸

所在地　鹿児島市田上町
敷地面積　165.29㎡
建築面積　53.00㎡
延床面積　129.00㎡（1階51.00㎡、2階49.00㎡、3階29.00㎡）
用途地域　第1種低層住居専用地域
家族構成　夫妻、子ども2人
竣工　2003年1月

主な外部仕上げ
屋根　ガルバリウム鋼板横葺き
外壁　しっくい塗り仕上げ、ガルバリウム鋼板張り

建具　マーヴィン（インテグリティ）
デッキ床　米ヒバ目透かし張り　リボス（カルデット）塗装
主な内部仕上げ
床　津江杉板張り　リボス（アルドボス）塗装
壁　構造用合板あらわし仕上げ
天井　構造用合板あらわし仕上げ

2階平面図



配置図　1階平面図

住み手からの
暮らしを楽しむ
メッセージ
2

奄美の海の釣りの醍醐味

内野和久さん

奄美大島に友人がいるのでそちらに行き、船で魚のいる場所へ出掛けていくのが最近の釣りのパターンです。奄美大島付近やら、トカラ列島の方まで足を延ばすこともあります。奄美まで来ると、とにかく獲物の大きさが違う。鹿児島付近で大モノと呼ばれるものが、コンスタントに釣れます。冬はカンパチ、春にはロウニンアジやキハダマグロなど、何十kgという大きさです。奄美で大モノというと、だいたい50kgくらいのものをさします。最初は大きい魚がかかると少し恐かったけど、そのうちに大モノが釣れると、嬉しくって、嬉しくって、有頂天！！。ただ、騒いだら隣で釣っている人の迷惑になるので、心の中で「ニンマリ」です。釣った魚はそのまま船の上でさばいて、食べることもあります。これ以上の新鮮さはないというくらい新鮮で、身はプリプリ。でも、いちばん違うのは匂いですね。特にカツオなど血あいの多いものは、買ったものは食べられないっていうくらい違う。船で一泊する時は切り身をツケ丼にして食べますが、これがたまらなく美味しい。

もちろん釣りが目的ですけど、とにかく海に出るのが楽しいですね。でも釣りを始めた頃に比べ、魚は確実に減っています。釣り仲間もみんな、同じように感じています。楽しみだから、なるべく環境に負荷をかけないようにしたい。たとえば、食べられる分だけもって帰り、多かったら海へもどすとか。短い時間で釣り上げて、魚になるべくダメージを与えないようにする。それに、糸を切られないようにすることも大切です。今では、分解されて自然界に戻るような釣り糸なんかも開発されています。海の自然を壊さず、ずっときれいで楽しめる場所であってほしいですよね。

奄美だからといって、どこでも釣れるわけではありません。釣れるところへ行かなければいけない。ですから情報がなにより大事です。そう、釣りを始めると見ず知らずの人から電話をもらったりして、仲間は確実に増えます。船を出すときは数人で行きますから、しょっちゅう誘いがあるんですよ。（談）

11月の奄美の海。ちょうど獲物が掛かったところ

釣り上げたカンパチはこれでも小物

この時の獲物一覧

開放的な屋内

シンケンの住まいはあまり仕切らずに、空間を開放的に使うようにしています。子ども部屋なども最初から人数分の個室をつくることはあまりありません。小さい時は一緒に使い、子どもの成長に合わせて、家具を移動させたり、簡単な間仕切りで仕切ったりして、融通がきくようにしています。住まいは長く使うものですから、なるべく使い方を限定するような個室を少なくして、家族の状況に合わせていろいろと使い分けができるように考えると、開放的なプランになるのです。たとえば寝室なども、1年中、1カ所と決めなくても、子どもと一緒に寝るときはタタミの間、夏になったら涼しい1階の板の間、春は花が眺めやすい庭側の部屋にするなど、季節によって、その時々によって、その部屋が寝室になればよいと考えています。しっかり区切った部屋が少ないので、廊下が少ないのも特徴のひとつです。

また、ソーラーシステム（90ページ参照）を採用している場合が多いので、その暖房システムを有効に使うことによって、このような開放的なプランが可能になります。

光や空気は、ゆうゆうと通り抜け

仕切らないから、伸び伸び使う

参加型キッチン

作業が見えるから、話ができるし、手伝いやすい

世の中にはたくさんのシステムキッチンが売られていますが、シンケンの住まいではオリジナルに開発したキッチン家具を使っています。基本的にアイランドキッチンといって、レンジやシンクなどを設備した大きな作業台を中央に置き、壁側に収納家具をつくりつけています。このキッチン自体はダイニング側に壁がなく、まったくのオープンですので、気軽に家事ができ、それが家族の手伝いやすさにもつながっています。食事づくりを担当する人、片付けを担当する人は、孤独な場所で作業するのではなく、常に家族のだれかと話すことができるので、団らんがしやすいスペースなのです。

キッチン家具は基本的にフラットな天板とワゴンや引き出し形式の収納ユニットで構成されています。食器やナベの数、調味料入れや乾物入れ、炊飯器やポットの大きさなど、各家庭の事情に合わせてこのユニットをつくりますので、シンプルで使いやすく、掃除もしやすいと好評です。

キッチンに必要な道具や食器は、表に出さず、すべて収納できるようにつくっている

2階はほとんど間仕切りがなく、ぐるっと回れる間取りで、キッチンに立つとほぼ全域を見渡すことができる

中央カウンターに組み込んだ炊飯器収納

引き出し式日常用食器入れ

表に露出しない包丁とまな板

コンロ下のオーブンとナベ収納のスペース

みんなで作るから、みんながおいしい

錦江湾北側の姶良町で
長年酒店を営む加治木さんは、
27年前に建てた鉄骨鉄筋コンクリート造のお店を壊し、
これからの店のあり方や快適な住み心地を考えて、
３階建の木造に建て替えました。
人目を引くしゃれた外観、広く明るい板土間の店内、
ゆったりした住居部分は
お客さまを増やし、ここで働く加治木さんの表情を
生き生きとさせています。

カジキ商店

LLBのライフスタイル

03

住む 永く

「カジキ商店」は創業昭和8年の酒屋さん。交差点に面して建つ3階建ての黒い建物は、ガラス張りの入口と木製デッキが斜めを向いていて、信号待ちのドライバーが「ん、何の店？」といった顔で目を走らせたりしている。リニューアル効果は手応え十分。なかなかいい感じだ。

以前この場所に建っていたのは、二代目のお父さんが27年前に建てた鉄筋コンクリート造の店。その建て替えを三代目の加治木徳三さんが取り仕切った。「新しい感覚の店を」とグイグイ進もうとする息子と、「あまり冒険せず、地道に」と言う父と、親子の微妙な価値観の違いを乗り越えて、バージョンアップの時を迎えたのだ。

頑丈な家の構造ゆえに、不自由な部分も

お父さんが以前の店を重量鉄骨を使う鉄骨鉄筋コンクリート造にしたのは、水害に負けない頑丈なつくりにしたかったから。しかし、頑丈にできたのはいいが、工務店にイメージがうまく伝わらず使い勝手も悪かった。いちばん問題だったのは、駐車場スペースが取れなかったこと。「いろいろ気に入らないことが多かったけれど、鉄骨はやりかえがきかない。今度は木造で建てようと思いましたよ。でも（シンケンの家じゃなくて）もっとふつうの木造を考えてた（笑）」とお父さん。

そのいっぽうで、結婚当初から「ふ

すっきりした店内は板土間で靴で歩いても柔らかな感触。窓からは木々の緑が見えるように植栽が施してある

つうの木造とはちょっと違う」シンケンに目をつけていたという加治木さん夫妻。「今はどこも酒屋がコンビニになっていってますけど、僕は米と焼酎だけでやっていきたいんです。どこにでもある店にはしたくない。〝人が真似できない店〟を建てたかった」。そう徳三さんは言う。三代目にとって「店を建てる」ということは建築上の問題ではなく、「次代を担う新しい酒屋としての姿をどうつくるか」という特別な意味を持っていたからだ。だがその頃は、シンケンの家は魅力的だけど店舗併用住宅にはできないだろう、と思い込んでいた。

それを聞いて「いや、私もシンケンは知ってたんですよ」とお父さん。シンケンで建てた家に何回も配達に行ったことがあるし、家の前を通り過ぎて、「あぁこの家はシンケンだな」と思ったこともある。「でも、玄関先でチラッと見るとクロスも貼ってないし、塗り壁でもない。第一ベニヤ板じゃないか、ってね（笑）。つくりかけじゃないのか？とも思いましたよ」だから息子夫婦がシンケンで建てようと言い出した時には、さすがにすぐにはウンとは言えなかった。いくら夏涼しく冬暖かいと言われても、それとこれとは別である。

地域密着型の酒屋としては、代々続くつきあいというものがある。やっぱり知り合いの設計事務所に相談するべきじゃないか……、お父さんの心は揺れた。6年前の話である。

お店に続く古い倉庫では
お父さんこだわりの精米機が稼働する

倉庫の方から見た店内。ゆったりと商品が選べるスペースになっている

三代目が考えた、オリジナルな店づくり

そうこうしている内に5年が経った。物事にはタイミングというものがある。それまではいくらがんばっても前に進まなかった事がポーンと実現される時が来るものだ。カジキ商店の場合、それが昨年だった。三代目の徳三さんは今年40歳。お父さんが最初の建て替えをしたのは42歳。男が将来を見据える時期というのは同じ頃なのだろうか、「息子夫婦に任せよう。やっぱり今からの店づくり、今からの商売をせなあかん」父は静かにそう決心したのだ。

徳三さんと智恵美さん夫妻が数年ぶりに訪れた住宅展示場にはシンケンの新しいモデルハウスが建っていた。「やっぱり木の匂いが違うんです」と智恵美さん。エントランスからそのまま続く板土間はちょっと特別な雰囲気を醸し出していて、何かできそう、という気分にさせた。「お店もできますよって言われて、これで自分たちの願いが叶えられる、と思いました」。入ってみたいと思わせる店にしたい。この店は何か違う、と感じさせるものが建物に備わっていて欲しい。お米はお父さんが、焼酎は徳三さんが担当して、それぞれのこだわりを前面に押し出していく戦法だ。前々からのお馴染みさんも、若い人も来られるようなオープンな雰囲気にしていきたい……2人はシンケンのスタッフにそんな新しい店のイメージを伝えた。

ダイニングでくつろぐ加治木さん一家。手前上部は吹き抜け部分。階段と梁の間には3階の質の子張りの廊下がのぞく

2階のリビングダイニングキッチン
3方向に窓があるので広い面積でも明るく
風も自在に抜ける
ソファの上は吹き抜けなので、一際光が降り注ぐ

カジキ商店の明るい未来

それからほぼ1年。完成した店を見に行くと、懸案であった駐車場もしっかり確保され、そこから店と住まいと倉庫にアプローチできるようになっている。店の入口は斜めに振り、ステップを設けてゆとりをもたせた。内部の床は板土間。西側に大きく開けた開口部から緑が飛び込んでくる。昔からのお客さんはあまりにキレイになった店に、「ヨカや？（入っていい？）」、「靴、脱がなくていい？」と冗談っぽく遠回しの誉め言葉をかけてくれる。それに、耐久性を誇るLLBにしたことで、1階にこれだけ大きく壁のない店舗スペースを設けながらも2階、3階に徳三さん家族の住まいをゆったりつくることができた。2階のキッチン脇には床

3階の子ども室は約16畳の広さがある。将来2つに分けてもいいように、出入り口は2つ設けている

洗面脱衣室の横には、洗濯物を干すためのデッキバルコニーがある。家事にお店にと忙しい智恵美さんに好評のスペース

2階の階段。正面がダイニング、右は洗面脱衣室、左は廊下を挟んで主寝室がある

お店西側につくったデッキで家族集合。手摺りの向こう側は小さな水路になっている

デッキの脇に流れる水路。護岸の緑が目にやさしく映る

から天井までの開口部が設けられ、外に向かって開くことで実際以上の広さを感じさせてくれる。

当初は「どんなもんかなぁ」と首をかしげていたお父さんも、お客さんの反応や生き生きと働く息子夫婦の様子を見ていると、だんだん自分も「1日1日いいところが見えてくる」ようになった。特にいいと思うのは、敷地の脇を流れる川に面した大きな窓。以前は壁でふさいでいたため風通しも悪かったし、川は水害をもたらすばかりの存在で意識したこともなかった。「それが、こうやって見ると石垣もシダの緑も綺麗で、つくづくいいなぁ、と思うんですよ」。

気持ちが明るくなれば、それが商売にも反映される。オープンして1ヶ月、店の片隅には智恵美さんがつくった小物のコーナーができて、酒と米だけだった世界に彩りを添えていた。徳三さんは、自分が納得できる焼酎だけを揃えることに心を砕いている。奥のスロープの向こうには先代が大事にしてきた精米機が見え、ここでも商品の質にこだわるカジキ商店の心意気が感じられる。「新装オープンしてから若い人が増えた気がします」とうれしそうな智恵美さん。「焼酎はつくり手の人間性と考え方が正直に製品に"出る"」と徳三さんは言ったが、住む人の人間性と生き方へのこだわりは家に"出る"。信頼のおける素材と、施工の確かさ、空間の創造性。三代目が焼酎を吟味する目で選んだ家である。

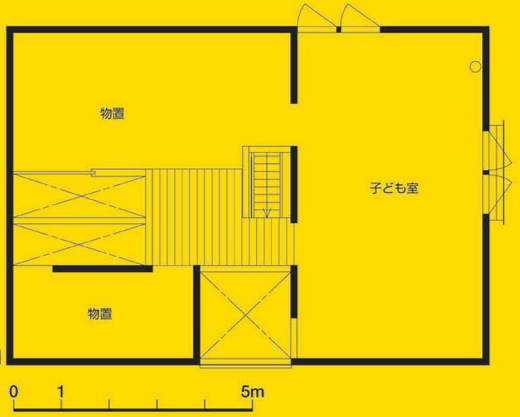
D A T A

建築概要
カジキ商店

所在地　鹿児島県姶良郡姶良町
敷地面積　299.96㎡
建築面積　73.00㎡
延床面積　200.50㎡（1階68.50㎡、2階73.00㎡、3階59.00㎡）
用途地域　第1種低層住居専用地域
家族構成　夫妻、子ども2人
竣工　2003年6月

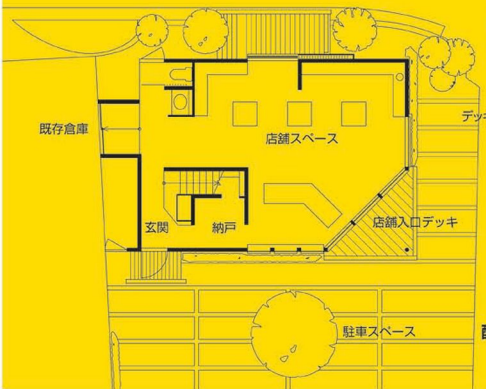
主な外部仕上げ
屋根　ガルバリウム鋼板横葺き
外壁　ガルバリウム鋼板（角波）張り
建具　マーヴィン（インテグリティ）
デッキ床　米ヒバ目透かし張り　リボス（カルデット）塗装

主な内部仕上げ
床　1階：構造用合板あらわしにリボス（アルドボス）塗装、2階：3層パインフローリング張りリボス（アルドボス）塗装
壁　構造用合板あらわし仕上げ
天井　構造用合板あらわし仕上げ



3階平面図

2階平面図



配置図・1階平面図

住み手からの
暮らしを楽しむ
メッセージ
3

カジキ商店の、鹿児島オススメ芋焼酎

加治木徳三さん

どこにでもある酒屋ではなく、うちにしかできない商売をしようと考えています。店で扱っているものは、基本的に厳選された鹿児島産の焼酎と、すりたてのお米がメイン。お米は父が担当していて、昔から使っている愛用の精米機で少しずつ精米してます。焼酎は私の担当。県内100以上もある蔵元の中から、味はもちろんのこと原料選びや製造過程などを調べ、焼酎づくりに対する熱意や姿勢に納得した10社程度の蔵元を選んでいます。特にわたしと同じような若い世代と交流しながら、「これぞ！」と思う焼酎を店に並べているんですよ。

この品揃えの中から、焼酎初心者から特別な日に飲みたいオススメ焼酎を選んでみました。まず、初心者にオススメなのが、まろやかな口当たりの西酒造の「富乃宝山」です。少し焼酎の味に慣れてきたら、焼酎の独特の風味が楽しめる佐多宗二商店の「晴耕雨読」。お湯割りだったら佐藤酒造の「佐藤黒」。さらに焼酎にはまり、毎晩晩酌でという人には、経済的な白金酒造の「白金乃露黒」。そして、特別な日、大切な記念日に飲みたい焼酎は西酒造の「天使の誘惑」と佐多宗二商店の「刀」。「天使の誘惑」は樫樽で７年寝かし、味わいの深い古酒。「刀」は紅サツマの芯だけを使って醸造した、いわゆる焼酎の大吟醸。深いコクと味わいが楽しめます。ロックかストレートで楽しんでいただきたい焼酎です。（談）

白金酒造の焼酎工場

同じ姶良町にある白金酒造の「石蔵」もカジキ商店常備の品。現在でも手作りにこだわってつくっていて、芋本来の香りや甘さを引き出したものとなっている。おいしい飲み方は、焼酎を好みの割合で水で割り、人肌くらいの燗につけ、少し冷ましてから飲みます。お湯割りの場合も、少し冷ますと、風味がぐっと増してくる。

米麹

昔ながらの木樽の蒸溜器

仕込み用の甕は、温度を安定させるため土に埋めている

住まいの骨組み

建物の構造には、集成材という木材と構造用合板を使います。集成材は柱や梁、土台、棟、母屋などに使い、構造用合板は壁や床、屋根に張っています。工法の種類でいうと、木造は木造なのですが、昔からある在来工法ではなく、木質軸組パネル工法といいます。在来工法では柱や梁などの材料は、一本一本性質が違い、その性質の見極めが要求されるため、大工さん個人の力量によって出来上がりにバラツキがでていました。対して木質軸組パネル工法では、材料を工場で一括管理して加工するので、寸法精度が極めて高く、信頼のおける品質を確保できるという利点があります。集成材は安定的に使え、経済性もよい北欧産の赤松を、合板は北海道産のから松を3層に重ね合わせたものを使い、材料そのものの強度や耐久性に差がでないようにしています。そして、これらの部材をつなぎ合わせる金物は極めて錆びにくいダクタイルという素材を使い、独自の方法で緊密に繋ぎとめます。住まいの中は直に触れられる梁や柱があり、あまり壁の仕上げもしませんので、合板のおもしろい木目を見ることができます。素材のままで、十分に美しい木材です。

シンケンには、この建て方を専門に行う若いフレーマーがいます。丁寧に素早く建物の骨組みをつくっていきます。こうした、安定的で安心の素材を使うことで、3階建てにも余裕をもって対応することができるのです。

土台と柱の連結部

木材の端部にある金物の留め具

LLB建て方

01
基礎コンクリートの上に土台を回し、柱を立てる

02
1階外周の梁をとりつけて、柱をつなぐ

03
1階の外周の梁が終わったら、内側の梁をとりつける

04
格子状に組まれた1階梁の上に床パネルを張る

05
徐々に立ち上がっていく骨組み

06
2階床パネルが張り終わったら2階の梁をとりつける

07
高いところの部材は
クレーンで持ち上げ、とりつける

08
3階の床パネルを張る

09
屋根を支える部材をとりつける

10
だんだん家のかたちになってくる

11
3階の柱、屋根の棟や母屋を
とりつける

12
ほぼ骨組みが組み上がる

13
壁パネルの搬入

14
壁パネルを1階からとりつける

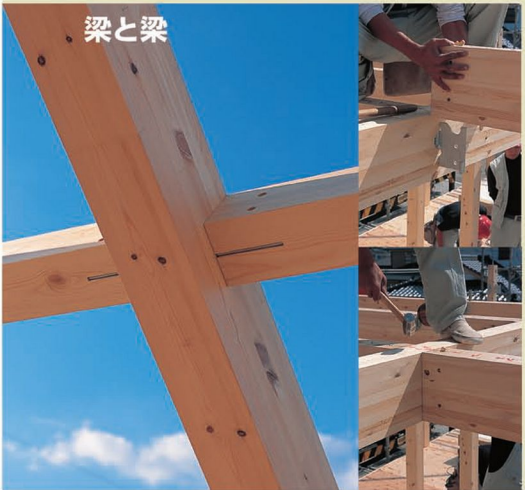
15
壁が終わったら、
屋根の下地パネルをとりつける

KATO
SINKEN
STYLE

骨組みをつなぐ金物

昔の木造で金物といえば釘や鎹（かすがい）くらいのものだったのですが、今や在来工法でも大小さまざまな金物が使われています。従来の金物は強度上、鉄製のものが使われていました。

鉄は湿気によって錆び、性能が落ちてしまう恐れがありますので、その表面には錆びにくい塗装などが施されてたのですが、LLBで使う金物は、ダクタイル鋳物という素材でつくる、より性能の高いものです。この金物は鋳鉄ですのでふつうの鉄より強度がある上、極めて湿気に強く、衝撃や振動にも耐性が高いという特性をもっています。梁と柱、梁と梁などの部材と部材の接合部という骨組みの中でいちばん重要な部分に、安心して使える素材と考え採用しました。また、この金物をつくっている会社は長年ダクタイルの製造を手がけていて、製品ひとつひとつに製造番号がつけられ、品質に責任をもって供給しています。



金物開発に関わった
平澤幸夫さんに聞く

見えない部分に技がある

住宅産業との関わりは、某大手プレハブメーカーのためのプレカット機械を開発したのが始まり。高度経済成長で手工業から大量生産に切り替わり、どこもライン化に力を入れていた時期です。機械はよく売れました。でも技術者として、その機械を使って建てた家に納得がいかない。ただ大量に売ればいいという姿勢がみえてしまって、本当にこんな考え方で家をどんどん建てていいんだろうか、と思いました。これでは日本の住宅は、ますます地域性や文化を失ってしまう。その疑問をメーカーにぶつけると「そんなに気になるなら自分でやれば…」と相手にしてもらえませんでした。

それで、木材に詳しい専門家を集めて研究を行いました。目指したのは、接合金物と耐震壁パネル、集成軸組材でつくる新しい木造です。日本の在来工法は仕口で持っているので、ホゾ組みが複雑になるほど木材が削られて弱くなってしまう。その部分を金物で緊結しようということなのですが、これまでの金物は錆びてしまう可能性を否定しきれませんでした。

新しく開発した金物はダクタイルという球状合金を使っています。鋳物に鉄分を加えて硬く、壊れにくくした金属で、表面の特殊加工によって内部まで錆びないという特徴を持っています。日本ではマンホールの蓋や、新幹線のレールと枕木の間にある接合部、その他、阪神大震災の後の水道管やガス管などに使用されています。つまり、それだけ「強い」。

さらに改良したのは、これまでの接合金物のようにピンで支えるのではなく、面で支えるという点です。棒状のボルトは激しい衝撃を与えると木材にめり込んで接合部分に緩みができてしまう。新しいボルトは、ＬＬＢをよく見るとわかるように先が円盤状になっていて、その円形部分全体で荷重を受け止めることができます。また、金物に「引き寄せ機能」がついているので、より強固に緊結できるようになりました。これは実は宮大工が神社仏閣で使う「くさび」のアイデアを生かしたものです。私は、この金物を生かせる住宅を探したのです。

大切なのは見えない部分でどれだけきちんとやるか。日本の住宅産業はそれをおろそかにしています。シンケンの住み手に会うと、本当によく勉強されていて驚きます。シンケンさんは日本の住宅を根本から変えるような気がするんです。そして地域や歴史と文化に密着し、自然環境も意識している。「あぁ同じことを考えている人がいた！」と思いましたね。

柱にとりつけたダクタイルの金物

シンケン・オルスタズ

シンケンでは建築現場で働いている職人さんを「オルスタズ」と呼んでいます。大工さんをはじめ、建具や家具の工事、給排水設備、電気配線などを担う多くの人たちの集まりです。

オルスタズとは「オールスターズ」からとった造語です。意味は選ばれた人たち、みんながスター。一人ひとりが輝いている役者という意味で、仕事をする姿を見られていること、見せることを意識して取り組んでいます。

メンバーは毎月1回、早朝からの会議に集い、全員で住まいづくりの理念を確認し、住み手や近隣の方々にいかに喜んでもらえるかをテーマに、日々研修を重ねています。

早朝の会議の様子

現場常設の清掃セット

それぞれの持ち場でシンケンに仕事に取り組むオルスタズ

シンケンオルスタズ、大工の
上村さん親子に聞く

木造の基本をおさえる

上村義雄さん

そうですねぇ。ふつうの木造住宅と違うところは、巾木や回り縁がないということでしょうか。巾木は床と壁のつなぎ目で、ふつう壁の下側に巾6～10cmほどの板が回してあるんです。こうしておくと、床板のいちばん端がびったりしないとか、壁の仕上げがたりなくても、この巾木でカバーできるんです。回り縁も壁と天井のつなぎ目部分で、同じような役目をしています。ところが、シンケンの家にはそれがない。だから、ごまかしがききません。

基本は材料を見る目がないとだめということ。木はそれぞれ癖があるから、それが読めないと、適材適所に使えません。曲がる方向や縮む割合などがわからなくては、たとえ現場できれいにおさまっても、その瞬間だけなんですね。家は何年、何十年も使うものだから、1週間たって隙間ができてしまっては、なんにもならない。それで、木の癖をよく読んで、道具をあてる。この道具をいかに使いこなすかが、大工の腕のみせどころ。きれいにつくることが基本ですけど、早く仕事をするということも大切です。

実際につくっていて、ふつうの家と違うなと思うところは、開放感でしょうね。中で仕事をしていても、明るいし、風は通るし、環境はとてもいい。OMがあるでしょう。これがあると、現場の温度が一定で、仕事がしやすいんです。それに、基本的に無垢の材料が多いから、シックハウスの心配もありません。

間取りやデザインの部分では、設計室がひとつひとつ考えてつくるので、同じ仕上がりというのがないんです。手摺りや家具も、その家に合わせてかたちにしている。こういうところも他の住まいと違いますね。

長男／雄一さん

大工を始めて11年目、シンケンの住宅を始めてから2年目。最初は他の工務店で大工修行。和風住宅を長くつくってきたが、室内を飾る化粧的な細工は飽きてしまうし、まがいものも多く長くもたない。その上、デッドスペースも多くできてしまい、空間がもったいない。シンケンの家の魅力は、十分な強度を確保したうえで、飽きのこないシンプルなつくりにあるという。

左から、義雄さん、義人さん、雄一さん

次男／義人さん

義人氏は大工を始めて8年目。シンケンでは5年のキャリア。むずかしいの一言。大工という職業については、カッコイイと思っていたこともあって、この道へ。うれしいのは、お客さんに直接褒めてもらったとき。「ここまで、やっていただいてうれしい」とことばをかけてもらって感激する。シンケンの家を自分でつくって住みたいのが希望。妻も「この家ならいいわ」と意見が一致したとか。

シンケンの使う木材は品質の安定した乾燥材。
しかも室内にそのまま出るものなので、
濡れたり汚れたりしないように、
毎日きちんと養生シートをかけて管理している

無二の住まい

04

LLBのライフスタイル

湯楽庵

自宅に温泉を引きたくて、
指宿の土地を求めた平山さん一家。
木の質感とソーラーシステムの考え方が
気に入って建てたLLBの住まいに、
平山さんのこだわりが詰まったお風呂がつくられました。
こんこんと湧く約60度のお湯、
木の香りと素肌にやさしい石の触感、
湯船につかると広がるバスコートの景色。
日常の中に、極上の楽しみをつくるので
「湯楽庵」といいます。

湯楽庵は1階に温泉、2階にリビングダイニングがある。こげ茶の板が横に張ってあるところは、テラスデッキ部分

ハワイアンが眠たげに流れる真夏の指宿駅前商店街。太陽は容赦なく照りつけ、日影を探してやっと歩く、そんな午後。しかし、目指す「湯楽庵」で待っていた平山さんは涼しい顔で出迎えてくれた。

どうぞ、どうぞと促され、2階への階段を上ると正面の大きな窓からお隣の緑越しに雄大な海が……、でも景色はさておき、まず口から出たのは「涼しいー!」の一言。窓の外の灼熱地獄はまるでウソのように、私たちは吹き抜ける風の中に立っていた。

「風通しについてはかなり考えましたからね」と平山さん。「今の時間、この海側の窓から風が入ってきて、午後になると今度はデッキの方から風が抜けるんです。この地域の気象にあった位置にちゃんと窓が開けられているから涼しいんです」。

「気象」なんて言葉がすらっとでるあたり、さすが専門家である。実は平山さんの仕事は、オゾン層や紫外線量の監視といった地球規模の環境問題がテーマになっている。

無類の温泉好きの家づくり

平山さん一家は数年前まで千葉県に住んでいたが、転勤と引っ越しが続く暮らしに終止符を打つべく、土地探しに乗り出すことにした。自らの家に「湯楽庵」と名づけるくらいだから、言うまでもなく無類の温泉好きである。家を建てるならとにかく温泉が簡単に引

爽やかな朝日が入る浴室。
温泉の表面に光の輪がゆらゆらゆれ、
絶え間なく湯が浴槽からあふれ出していく

ゆったりと温泉に浸たる平山さん。
上部庇は2階デッキ部分。
手前には足ぶろ用に石組でたまりをつくっている

けるところと、奥さまの故郷、鹿児島にねらいを定めた。「不動産屋さんに旅館の経営者と勘違いされて、500坪の土地に案内されたこともあった(笑)」が、お義父さんと二人三脚で土地探しに邁進すること約2年、やっとこの海辺の敷地に巡り会うことができた。

土地探しと並行して行っていたのは住まいの研究。住宅展示場では、木がふんだんに使われた北欧の輸入住宅に

毎日気持ちよい朝日が部屋に差し込む
ダイニングキッチン

心惹かれたが、気になったのは九州の気候に魔法瓶のような寒冷地仕様の高気密住宅が合うだろうか、ということ。そんな時、たまたま手に取った本で知ったのがパッシブソーラーの家だった。見学会に行ってみると、シンプルでモダンなつくりと木の風合いが同居していて、「これこそ自分が求めていた家だ！」と思えた。「シンケンのことはその時工務店に教わったんです。〝鹿児島といったらシンケンでしょう。あそこなら土地の気象をよく知っているはずだ〟って」。ソーラーを扱う工務店はその建物の性格上、全国どこでも地元の気候風土をよく把握している。それはその地の恵みを存分に活用するためだ。平山さんはそんな設計の思想が大いに気に入った。「シンケンに決めてからは何十軒も見学しました。ほとんどマニア状態（笑）。一定のルールがありなが

木をふんだんに使った明るい玄関は板土間

板張りの玄関ポーチ。板塀の向こうは浴室用の庭

ら1軒1軒全部違った表情をもっているのがいい」。平山さんはイメージを伝えるコンセプトをまとめた。1自然の恵みを生かす家、2遊びとこだわりのある家、3くつろげる気持ちいい家、4やさしい佇まいでなごむ家。メインはもちろん風呂である。家づくりは「風呂に始まり、風呂に終わる」と言っていい。平山さんは各地の温泉浴場に行っては、メジャー代わりのタコ糸で浴槽の寸法を測り研究を重ねていった。

浴室はフルオープンの露天風呂風

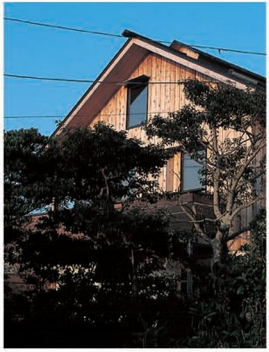
他の部分については基本的にシンケンにお任せ。しかし、知ってる人は知ってるとおり、迫社長のインスピレーションは恐ろしい。施工途中、洗い出しの予定だった玄関の土間はご近所さんと話ができるカフェ風板土間になり、七輪用のささやかなデッキは大宴会もOKの広さに変更された。「手摺りのスリットがふさがれた時はさすがにえー！っと思いましたけど、後で全体的に見るとバランスがとれてる。デッキを延長して玄関の庇まで連続させたあたりはさすがでした」と平山さん。

いちばんの変更と言えばお風呂。露天風呂風にフルオープンにするには特注部分が多くなるので予算オーバーということで、平山さんは早いうちにあきらめていたのだが、あきらめがつかなかったのは実は迫社長だった。長いこと悩んだ上、最後の最後に「予算に引きずられると卑屈になる」と、苦労承知でフルオープン露天風呂を実現させてしまった。

これはもう、誰の目から見てもこっちがいいに決まってる。湯に濡れてエメラルドグリーンに輝く浴槽の石は、サンプルを取り寄せてじっくり検討した秋田の十和田石。低くL字形に切り取られた開口部からは、視線に合わせて盛り土した坪庭の緑が飛び込み、海からの風が吹き抜ける。大の字に湯に浮かべば朝陽と湯気が混じり合う中にわが身も溶けて行く……あぁぁ！これを至福と言わずして何と言おう。ステ

蹴込み板に埋め込んだオリジナル階段照明

越し屋根の下は排気口になってる



デッキからは錦江湾が広がる、絶好のロケーション

平山さんは湯楽庵の建築をきっかけに、
その家づくりの楽しさと苦労をホームページで公開している
アドレスは、http://www.minc.ne.jp/~yurakuan/yurakuan-page3.htm

ンレス製のレールにも、特大木製サッシにもスタッフの情熱がいっぱいに詰まっている。目をつぶれば、複雑な浴室の基礎工事に挑戦してくれた職人さんの顔が浮かぶ。そして何より平山さんの理想を最後まで支えてくれた迫社長の存在は大きい。

毎日の生活で味わう、極上の時間

1階はもうほとんどがこの風呂のためにあると言っていい。一方2階は、LDKと和室が階段を中心にぐるっとつながる広々ワンルーム空間。フロアすべてが「家族が顔を見ながらオーブンに過ごせる場」なのだ。キッチンは「背を向けたくない」という奥さまの木ノ実さんの希望に沿ってシンクとコンロの両方を備えたアイランドに。周囲を回りながら作業するこのキッチンは「湯楽庵オリジナルぐるぐるキッチン」だ。リビングの中央に夫妻共有のパソコン用デスクを設置したのも「親が引きこもっていちゃいけない、と思って」のこと。パソコン周辺機器が納まるワゴンも、寸法、配線、電話線ジャックの位置など実に細かい!

さて、この家に引っ越してすぐ、平山家には新しい家族が誕生した。「泰地と書いてタイチ。地を鎮める、ぴったりでしょ」と赤ちゃんを抱く木ノ実さん。生まれた時から温泉に浸かり、初めて歩く床が無垢の杉だとは、なんてぜいたくなんだろう。しかも、知ってか知らずか、まったくお風呂をいやが

充実した１日の終わりは、みんなで七輪パーティー

木ノ実さん、海斗くん、泰地くん

らない子どもたち。おにいちゃんの海斗君と泰地君。「海」と「地」がお日さまを浴びる木の家で育っていく。

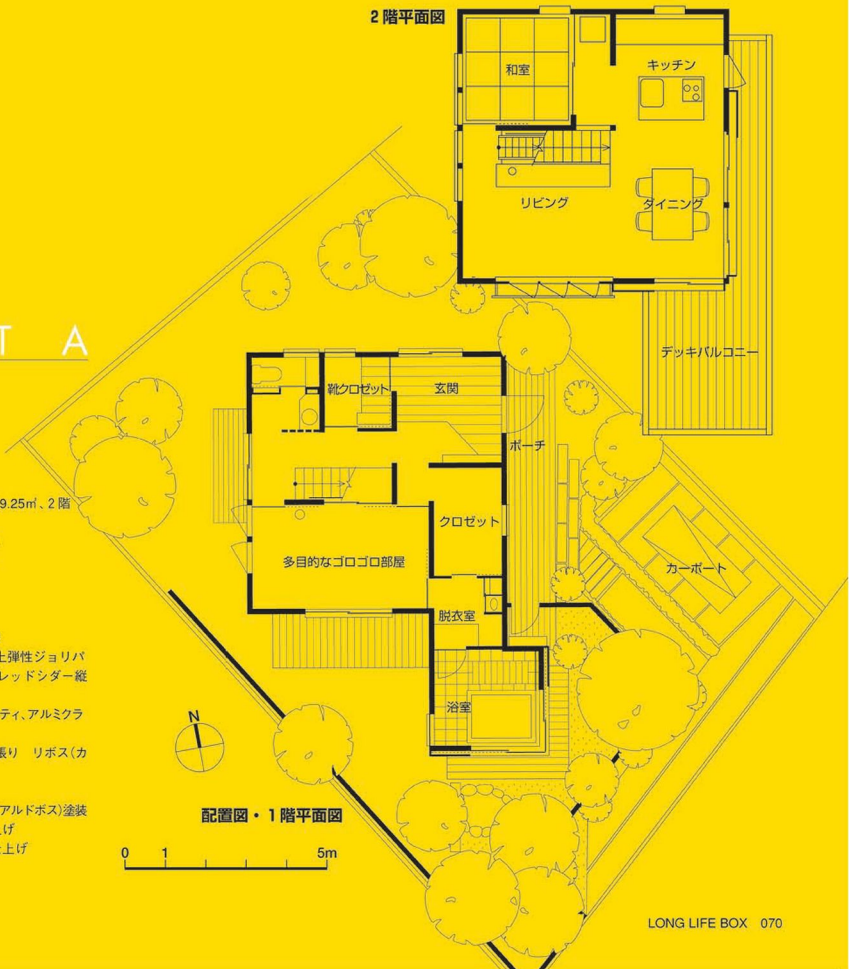
ダイニングの柔らかな灯りが漏れる夜、勤め帰りのお父さんは遠くからそのオレンジ色の光を見て屋根の下の家族を思うのだ。そしてまた風呂に入り、月明かりの下でビールを飲む。世の中にこれ以上の何がある？

DATA

建築概要
湯楽庵

所在地　鹿児島県指宿市
敷地面積　261.96㎡
建築面積　59.25㎡
延床面積　148.75㎡（1階59.25㎡、2階49.00㎡、3階40.50㎡）
用途地域　第1種住居地域
家族構成　夫妻、子ども2人
竣工　2003年7月

主な外部仕上げ
屋根　ステンレス鋼板横葺き
外壁　モルタル刷毛引きの上弾性ジョリパット吹き付け、ウェスタンレッドシダー縦張り
建具　マーヴィン（インテグリティ、アルミクラッド）
デッキ床　米ヒバ目透かし張り　リボス（カルデット）塗装
主な内部仕上げ
床　津江杉板張り　リボス（アルドボス）塗装
壁　構造用合板あらわし仕上げ
天井　構造用合板あらわし仕上げ



住み手からの
暮らしを楽しむ
メッセージ
4

湯の里、指宿温泉案内

平山久貴さん

「畑掘れば出湯畑に湧き、磯掘れば磯にも湧き出る指宿の里」（菊地幽芳）と詠われるほど湯量豊富な指宿温泉郷。この湯の里のそこかしこに、和やかな佇まいの共同浴場がある。

まずは、わが家行きつけの市営元湯温泉。大きな暖簾をくぐると、内部は古民家風の太い梁に石づくりの湯船。木と石が醸し出す重厚な雰囲気が味わい深い。元湯温泉では自分でお湯や水をドバドバ出して湯加減を調節できる。このワイルドな入浴が醍醐味だ。

次は、明治15年創業の村之湯。かつては湯治宿として名を馳せていたそうで、鄙びた風情が当時を偲ばせる。とにかく、ここの湯は熱い。我慢しながらゆるゆると肩まで浸かると、ピュアな源泉の成分が体の細胞に染み込んでいくのがわかる。何だかこの湯はとっても効くような気がする。

指宿市街地を離れて鰻池へ。林の中の小道を抜けると、ひっそりとした集落に行き着く。そこが鰻温泉だ。硫黄の匂いが漂う家々の庭先には、「スメ」と呼ばれる温泉蒸気釜がある。この地ほど温泉と暮らしが密接に結びついているところは他に知らない。立ち寄ったついでに共同浴場で地元の人とふれあうも良し、民宿にゆったり泊まるも良し。

指宿とその周辺は、近代的で豪華な設備とは無縁の共同浴場が多い。そこにあるのは良質の湯と、のどかな風景のみ。それがかえって新しくもあり、都会にはない環境に、心も体も解放されるというものだ。（平山久貴／記）

平山さんオススメの温泉の他、指宿の海岸線のあちこちには温泉の湯気が立ちのぼっていて、有名な砂むし風呂も堪能できる

元湯温泉

村之湯温泉

泉質はどこの温泉より一番いい!!と太鼓判を押す番台のご主人

鰻温泉

快適トイレとサニタリー

トイレの入り口は基本的に引き戸を使っています。天井から床までの戸は、全部開けると前の部屋や洗面台のスペースとつながります。ですから、掃除のときは、洗面所に続けてスムースに掃除機をかけられます。中は壁の厚さを利用して棚をつくり、ペーパー置き場にしたり、ちょっとした小物や花などが飾れるようにしています。狭くてもなるべく居心地が良いような空間にしています。

また、床の汚れやすい部分には表面のツルッとした石を敷いているので、拭き掃除もかんたんにできます。

洗面台は収納を鏡の中に組み込んで、細かい日用品が表にでないようなデザインにしていて、汚れが気になりやすい水回りをすっきりと、掃除のしやすい場所にしています。

外から見えず、中は明るく

ちょっとした工夫が
心地よさと使いやすさをアップ

木の香りの浴室

お風呂は一日の疲れを癒すリラクゼーションの空間です。予算はかかりますが、心身ともにリラックスできる、木の香りのする浴室を薦めています。木の浴槽にしたり、洗い場の床部分に木を使ったり、壁を木にしたりして、浴室に木の香りを漂わせます。それから、浴槽にゆったり浸かりながら、何を見るかも重要な課題です。低い位置に窓を開け、季節の移り変わりが楽しめるような庭をつくったり、眺めのよい場所に浴室を配置します。木の香りと湯けむりの中で、戸外の風景を楽しめる浴室です。また浴室の出入り口の床には、粗めの仕上げにした石を張ることで、水分による床の腐食を防ぎます。バスマットがずれないようにする効果もあり、掃除も簡単です。

安心、安全に入浴を愉しむ

温まりながら、
五感を満たす心地よさ

暮らしに合わせた収納

住まいを建てるとき、よく掃除の好き嫌いが話題になりますが、好きという人も掃除をしてきれいに整った状態が好きということのようで、掃除そのものが好きという人はあまりいないようです。だれでも、きれいな状態で生活したいと思うのですが、寝て、食べて、遊んで、働いて…、という毎日の活動は、まめに片付けないと散らかる一方です。しかもものが過剰にある現代は、往々にしてものが生活空間を圧迫していますから、まずものを整理することが基本です。その上で収納は必要なところに、必要な大きさのものをつくるようにすると、出しやすく、片付けやすくなります。それに、ふだん使わないものは、屋根裏の空間がありますので、ここは納戸部屋のように使うことも可能です。玄関に余裕があると、隣に靴クロゼットをつくり、家族はそこで靴の脱ぎ着をするようにしています。そうすると、玄関のたたきは、何足もの靴が並んでいることもなく、すっきりきれいに使えるようです。

家族用靴クロゼットで玄関スッキリ

傾斜部分も利用して

デッドスペースも有効活用

自然に寄り添う

05

LLBのライフスタイル

前田さん宅

根っからアウトドアが好きで、
より身近に自然が楽しめる住まいを
建てることにした前田夫妻。
リビングにいても、ダイニングにいても、浴室にいても、
眼前は左右いっぱいに広がる海があります。
いつ見ても飽きないその眺めを、
飽きない住まいから楽しんでいます。

南に向いたリビングダイニングは、大きな開口部のどこからも大海原が望める空間。友人知人たちは思い思いの場所に陣取る

その日、1年中波が立つという海はめずらしく凪いでいた。

水平線はどこまでも続き、入道雲がわき上がる。白い砂が美しい吹上浜は、鳥取砂丘と九十九里浜と並び称される日本三大砂丘のひとつだと解説してくれる前田さん。西の彼方にかすむ島影を指して「ほら、あれが朝鮮半島ですよ」なんてまじめな顔して言うが、いくらなんでもそこまでは見えない。

シンケンの住まいにハマっちゃって

鹿児島市内から車で30分ほどの江口浜は、前田さんが20年前からサーフィンに通っていた浜である。もともと市内に住んでいたが、毎週毎週通うならいっそこっちに住んだ方がいい、と土地探しに乗り出した。といっても、直接のきっかけとなったのは、妻の由美さんに送られてきた『シンケンスタイル』という1冊の本。何気なくめくると友人の家と笑顔が載っていて、早速遊びに行ってみたらそこは別世界だった。「2月の寒い日だったんですよ。でも中に入ってみると暖かい！　エアコンで人工的に暖めているのと違って、いつまでいても飽きない自然なあったかさなんです」と大蔵さんが言えば、「私はまず入る前に家全体の雰囲気が気に入りました」と由美さん。

「角を曲がった瞬間、街並みの中でそこだけフッと違う空間が広がっていたんです。かといって変に浮いてるわけ

浴室西側の壁は、隣との境界につくったコンクリート打ち放しの壁を利用したもの

ゆったりと湯船に浸かった視線の先も、雄大な大海原。
ウッドデッキの向こうには、水風呂用の浴槽がおいてある

じゃなくて、緑と一体になっていい感じに馴染んでるって感じ。気持ちよくてついつい長居してしまって」。それまで家を建てるつもりなんかまったくなかったのに、友人宅で洗礼を受けた前田夫妻は完璧に「シンケン教にハマってしまった」。

建てよう！と決まればあとは行動あるのみだ。北東斜面で日当たりが悪かった元の家は売りに出し、吹上浜の一部の江口浜で土地探しを開始。周辺の住宅地は海からの風を避けるように山の裏側に広がっていたが、どうしても海が見えるところに建てたいと、知り合いにかけあって、交渉の末、やっとどうにか海側の敷地を手に入れた。

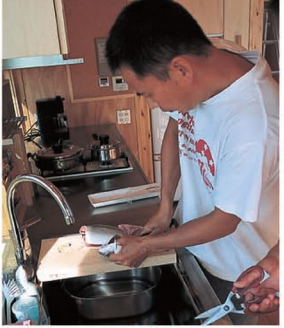
自分たちが納得するライフスタイル

ところで、話は変わるが前田邸の施主は大蔵さんではない。「うちは働く人と遊ぶ人がきちんと分かれているんです（笑）」と言う「働く人」というのは小学校の先生をしている由美さんなのだ。つまり大蔵さんは主夫である。3年前に結婚するまではごくふつうのサラリーマンをしていたが、「景気が悪くなってなんとなく居づらくなって」、由美さんに相談すると「辞めれば」と頼もしい言葉を頂戴できた。それで堂々とスローライフを楽しむ道を選んだというわけ。買い物と炊事は大蔵さんの仕事なので、新居のプランを練る時も、「海が見える気持ちいいお風呂を」と希望したのが由美さんで、「玄関を入っ

てすぐに食材を運び込めるコンパクトなキッチンを」と希望したのが大蔵さんだという。

しかし、大蔵さんの毎日は超多忙である。家事の合間を縫ってサーフィン、ロードバイク、キャンプ、ヨット、釣り……そして、立ち上げたばかりのNPO団体「江口浜ビーチサービス」の理事として、マリンスポーツの振興や、ライフセービング、ビーチクリーン活動もこなさなければならない。

もちろん由美さんも休日には一緒に遊びに行くので、遊び道具の量もハンパじゃない。それでガレージと家がほぼ同じ面積になってしまった。そのガレージからバスルームを通って海側までズドーンとRC打ち放しの壁が一直線に伸びている。「北西の風が強いので板塀をつくってください、とお願いしたら、社長が〝鉄筋コンクリートにしましょう〟って勝手に鉄筋コンクリートにされちゃったんです。これがまたいいお値段で……」と苦笑する大蔵さん。でもこれが大正解。敷地境界とお風呂の壁と風除けと目隠しを兼ねた一石四鳥の鉄筋コンクリート壁は、構造とインテリア、外と内を一体化して大



大蔵さんが慣れた手つきで魚をさばく

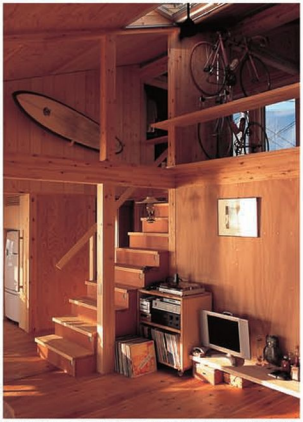
玄関や寝室、キッチンの上部につくったL字のロフトスペースは、作業などができる場所と納戸のようにものをしまう場所の2つに分けて使っている

迫力の露天風呂をつくってくれた。

気持ちよく暮らすことが、自然につながる

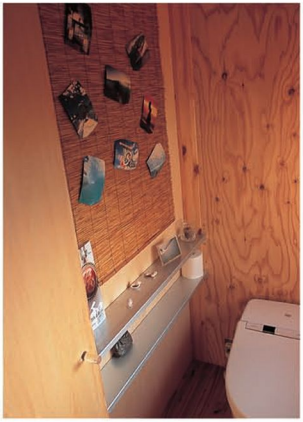
低く抑えた片流れの屋根の下に包まれるようなワンルームのLDK。その階段の裏側にある小さなベッドルームと斜めに張り出したバスルームがオープンにつながっている。コンパクトだからこそ斜めのラインが効果的に働いて、変化に富んだ空間の広がりを感じさせてくれるのだ。「西の海に太陽が沈んでいくのを風呂から見るのは最高ですよ。もちろん2人でね！」。水風呂好きの大蔵さんは浴室のデッキの先に骨董屋で見つけたという古い石風呂を設置した。夜は水面に反射する月の光を見ながら熱い湯に浸かり、素っ裸で外に出て水風呂にザブーン！　昼は海から帰ってまず水風呂にザブーン！

デッキからキッチンに入ってビールを飲んで……、おぉ！素晴らしき主夫生活。人生楽しんでますねー、と言う



自転車やサーフボードが映えるシンプルで柔らかな木肌の室内

洗面所横の寝室の天井には大きなトップライトがついており、満天の星空を眺めながら寝ることができるという



トイレの壁にはすだれをかけて絵葉書を飾る

と、「ときどきズルイと思うけど、一緒にいると楽しめますから」と由美さん。「でも、この家に引っ越して来てから、あんまり居心地よくて私も朝出勤するのがイヤになっちゃう（笑）」。

ここの地名である江口蓬莱の「蓬莱」は、もともと彼岸を指す言葉、つまり天国のように素晴らしいところ、って意味だという。海と山で気候が分かれているので四季が2倍楽しめる。「シンケンの家を建てたのは、自然と共に生きたかったから。NPO活動もこれからもっと充実させていくつもりです。

水平線に沈む夕日を見ながら、デッキで1杯

今、地元の人だけでなく、県外、国外にもネットワークが広がっています」と大蔵さんは満足そうに微笑んだ。

本当にやりたいこと、必要なものだけを見極めて、イヤなことは無理してやらず気持ちよく暮らすって、簡単にできそうでできないものだ。そうやって改めて見ると、前田夫妻の暮らしは先端を行っている。一見のんびりしているようで、実は深い人生観に基づいて生きているのだ、きっと。

「江口に新しい文化をつくる！」と意気込む大蔵さんの夢はでっかい。

片流れ屋根のシンプルな外観。デッキアプローチの奥が玄関

大蔵さんの料理に舌鼓を打つ由美さん
右は家族の一員のフィンちゃん

2階平面図

配置図　1階平面図

DATA

建築概要
前田邸

所在地　鹿児島県日置郡東市来町
敷地面積　482.30㎡
建築面積　70.00㎡
延床面積　102.00㎡（1階70.00㎡、2階32.00㎡）
用途地域　無指定(都市計画区域外)
家族構成　夫妻
竣工　2003年10月

主な外部仕上げ
屋根　ステンレス鋼板横葺き
外壁　杉縦目板押さえ張り リボス（カルデット）塗装
建具　マーヴィン（インテグリティ）
デッキ床　米ヒバ目透かし張り　リボス（カルデット）塗装

主な内部仕上げ
床　吉野杉板張り　リボス（アルドボス）塗装
壁　構造用合板あらわし仕上げ
天井　構造用合板あらわし仕上げ

住み手からの
暮らしを楽しむ
メッセージ
5

自然との付き合い方

前田大蔵さん

江口浜につながる砂浜は約47km。昔は海岸にも住所があったんですよ。おもしろいでしょう。今は海岸の幅が狭いので想像もつきませんが、昔は人がそこで暮らしていたんですね。しかし海岸線はずいぶん後退してしまった。砂浜が小さくなった理由は、川からの土砂があまり供給されず、波に浚われるばかりになってしまったからです。よく見ると、身近な自然はかなり形を変えてしまっています。

サーフィンやウインドサーフィンをする大きな目的は、海を楽しむこと。時々、どう波に乗るかというテクニックだけにこだわる人がいますが、海は季節や時間によって、波のかたちや色、光の加減や硬軟の具合など、たくさんの表情を見せます。この瞬間の、1度だけの出会いを楽しむことが大切なんですよ。

今の子どもは海は汚いから入らないという。海の汚れは、川の汚れが原因になります。鹿児島は養豚や養鶏が大きな産業となっているので、河口の海の汚れは見過ごせません。上流から流れ込むゴミもまたたいへん多い。つまりそれは人の生活と川が、身近でないからではないでしょうか。2003年2月に立ちあげたNPOの活動で月に1回浜の清掃をしていますが、1時間ほどでトラック2台がいっぱいになります。大半が川から流れてくるプラスチック系のゴミなんですよ。ゴミ拾いで劇的に海がきれいにはなりませんが、少しでも良い方向にしたい。まずは意識を変えることが重要なんです。今、この行動が、海や環境に対して、どういう意味をもつか。それを一人ひとりが考え始めることが、最初の1歩になると思っています。

自然と楽しく付き合うには、過剰な期待をせず、ありのままに受け入れる。その上で好奇心をもち、いつまでも感動する心を忘れないことだと思っています。(談)

11月には浜で、友人の手作りカヌーの進水式を行った

仲間が集まれば自主的に浜のゴミを拾う

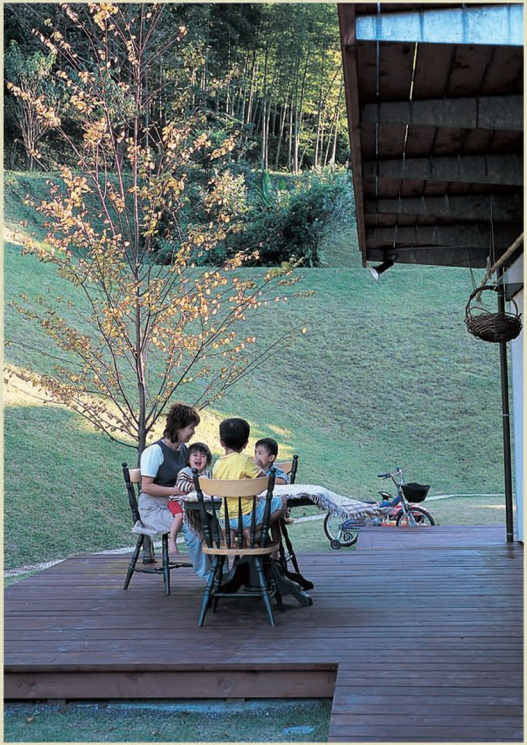
テラスという第2リビング

シンケンの住まいには、ちょっと広めのテラスがあります。住まいと庭の間にあったり、2階に張り出したベランダだったり、とにかく戸外の気候が爽やかなときに、ゆっくりくつろげるスペースです。

たとえば、日曜日の午前中ゆっくりとブランチをとったり、日だまりのできる午後にはお茶と会話を楽しんだり、夕暮れには夕涼みをしながらビールを飲んだりできる場所。ですから、外からの視線を遮りつつ、テラスは見晴らしのよいところ、庭の花や緑、鳥のさえずりなどが身近に楽しめるところにつくります。

なるべく高めの落葉樹を南や西側に植えて木陰ができるようにしています。そして、このテラスはできるだけキッチンの近くに配置します。キッチンとダイニングのように、キッチンとテラスの行き来がしやすいので、気軽にお茶や食事が出せるのです。室内とはひと味違う雰囲気をもち、わが家を広げる第2のリビングスペースです。

青い空、新鮮な空気と木々の緑が、時の流れをゆるやかに



住まいに内包された外が
暮らしのゆとりに

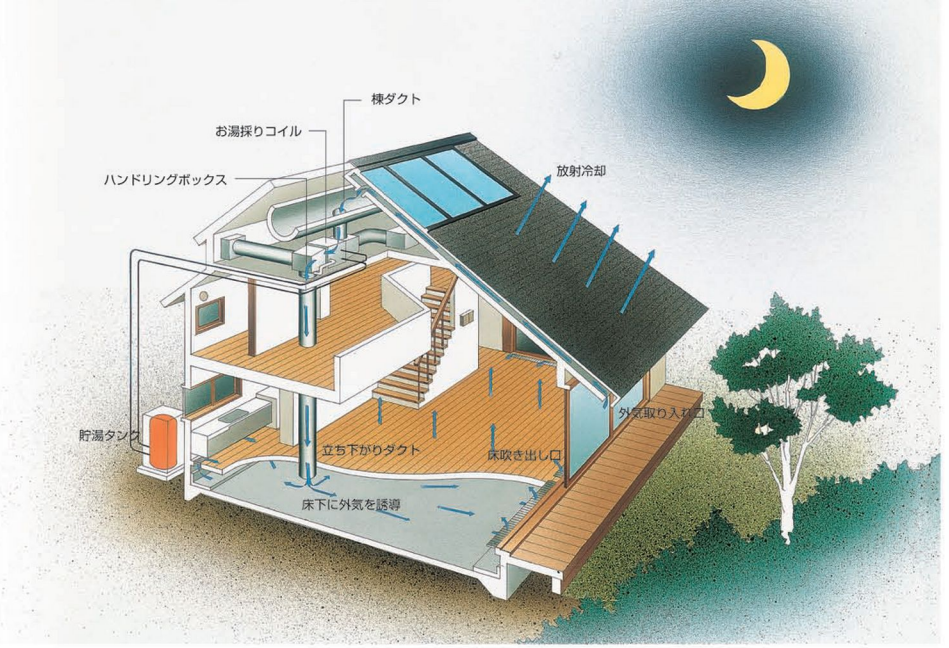
ソーラーシステム

シンケンの住まいは、パッシブソーラーシステムを採用しています。これは、屋根の上に集熱のためのガラス板を敷いて、冬は床暖房、夏はお湯ができるという、太陽熱を利用した暖房や給湯のシステムです。

簡単にいうと、屋根で集めた太陽熱を送風機で強制的に床下へ送り込み、床下のコンクリートを暖めるとともに、室内に吹き出し口を設けて、暖気を住まいの中へ送る仕掛けです。夏になると太陽熱は床下に送らず、コイルから伝熱させて水を暖め、お風呂や台所の給湯にします。

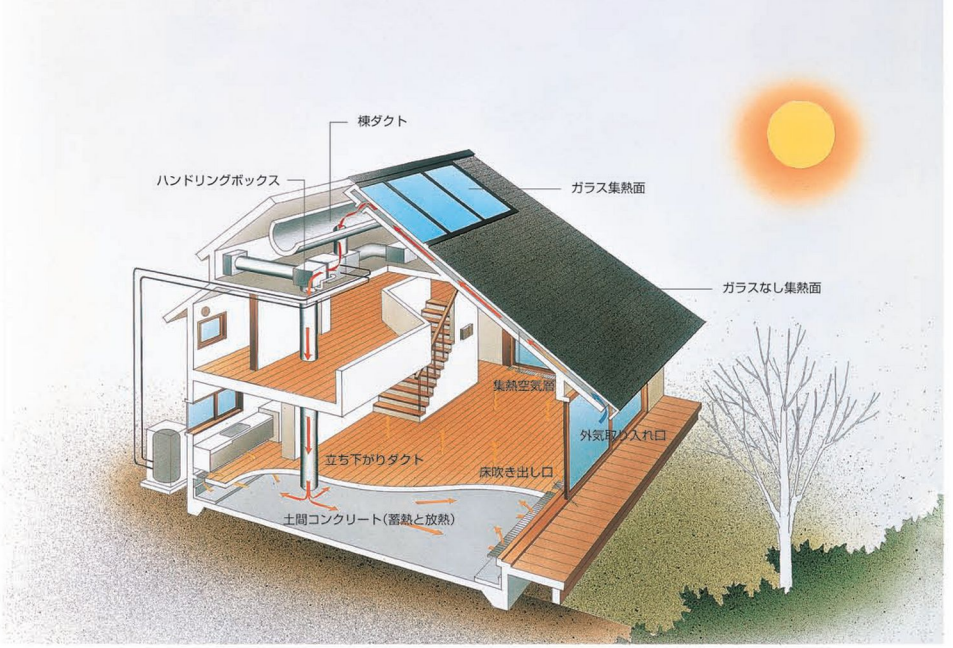
室内の吹き出し口は、温度差の大きい窓近くや、北側の部屋、トイレや洗面室につけ、住まい全体に温度差がでないように考えられています。床下のコンクリートに蓄えられた熱がじわじわと床に伝わり、床から室内に伝わるので、その柔らかな暖かさが、住んでいる方に喜ばれています。

もちろん太陽が出ないことには、暖房はできませんが、冬晴れの多い太平洋側ではソーラーの稼働率も高く、十分にその機能を発揮しています。



SOLAR HOUSE 夏のしくみ

昼間集めた熱は
お湯採りに使い
夜は屋根から
冷たい空気を
採り入れる



SOLAR HOUSE 冬のしくみ

屋根で
太陽の熱を集め
床下の
コンクリートに
熱を貯める

MUNICATION

シンケンスタイルはコミュニケーション

心地よい住まいづくりに取り組んできたシンケンが、
今、住みたい街づくり
「ソーラータウン計画」を進めています。
環境との調和や隣人との良好な関係を考えた街づくりです。
その計画の一端をご紹介しましょう。
また、この本を読んで、シンケンの住まいに興味をもたれた方へ。
「もっと考え方を聞いてみたい」
「もっと住まいの事例をみてみたい」
「実際の住まいに触れてみたい」
「住んでいる人の話を直接聞きたい」などなど。
そうした声にお応えするため、いろいろな機会を設けていますので、
お気軽にご利用、お問い合わせください。
シンケンの住まいづくりはコミュニケーションから始まります。
たくさんの方々との出会いを、心からお待ちしています。

COM

LLBの住まいが建ち並ぶ

SINKEN STYLE SOLAR TOWN

シンケンスタイルソーラータウン

2004年秋鹿児島市の郊外に、
シンケンがプロデュースしたソーラータウンが完成します。
一軒一軒は、いつものLLBの住まい。
そのLLBの住まいが全部で5軒建ち並びます。
少しまとまって建つので、通りの眺めや住まいから見える風景、
歳月が経った時の景色なども、あわせて考えてみました。
緑が多く、季節の移り変わりに富み、暮らしている人たちの
温かい心がふれあえる街。
自然が大好きな人たちが集う、
楽しくて、美しい、
そんな街を目指しています。

ソーラータウンのシミュレーションCG

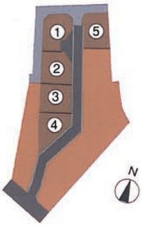
シンケンの住まいが並ぶ街をつくろう

ソーラータウンをつくるきっかけは、ある地主さんがシンケンに、売却予定のまとまった土地を任せたいという話から始まりました。つまり、まとまりのある土地の使い方について、シンケンが考える通りに宅地開発をしてもいいよ、というお申し出です。

シンケンでは、いろいろな理由から不動産業に対しては消極的でした。しかし近年、お客さまからの相談は土地探しからのことも多く、しかも希望する土地が予算と折り合わず、思うように住まいづくりにまで進まないことも、数多く経験していました。さらに、造成地の供給が控えられている現状も、お客さまの土地探しの難しさに追い打ちをかけていました。

こんな折、シンケンの家だけが建ち並ぶ街ができたらどうだろうか、と考えたのです。開放的で緑が多いシンケンの家が建ち並べば、ここの地域一帯は必然的に木々が繁るでしょうし、太陽に向き合い、その光や熱を最大限利用する家々は、風景にあるリズムと調和をもたらします。一般的な住宅地によくみられる、統一感のない街並みとは一味違う、美しく住みやすい街をつくってみようと思ったのです。

許認可後、宅地になる前に購入者募集

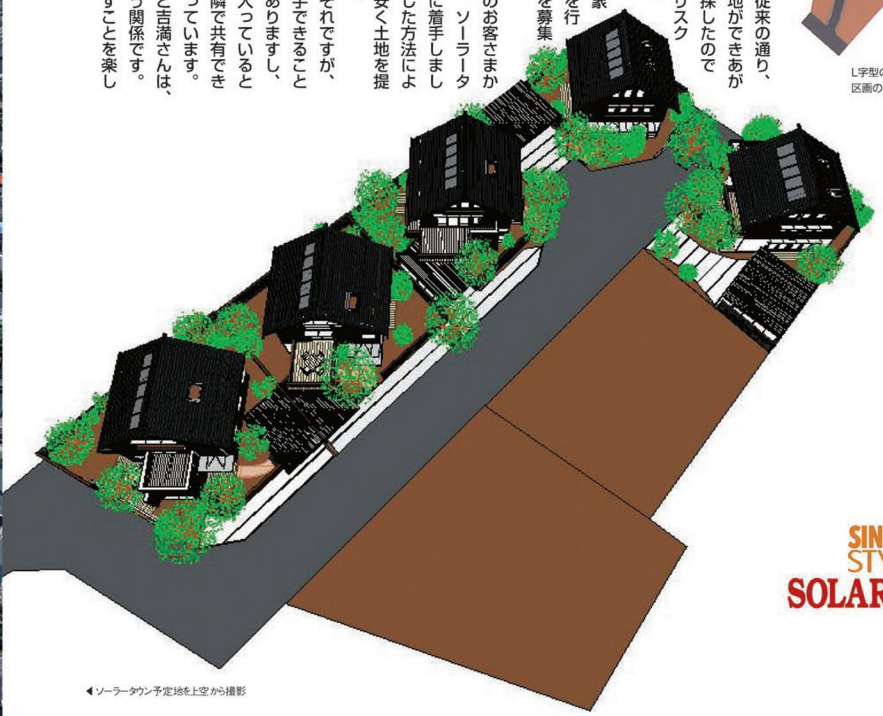


L字型の敷地を均等に、5区画の宅地に分けている

さて、そうは言っても従来の通り、先に区画造成を行って宅地ができあがってから、購入する人を探したのでは、空地を抱えるというリスクを背負うことになります。そこで、シンケンの住まいに興味のある方々を対象に、造成予定地の見学会を行い、事前に土地の購入者を募集することにしました。

分譲予定戸数の5戸分のお客さまから購入の希望をいただき、ソーラータウン開発のプロジェクトに着手しました。お客さまには、こうした方法によって、通常よりもかなり安く土地を提供することになりました。

購入された理由はそれぞれですが、土地と住まいが同時に入手できることで手続き的なメリットがありますし、シンケンの住まいが気に入っているという、近しい価値観を近隣で共有できることが安心感につながっています。お隣同士となる田坂さんと吉満さんは、奥さまが双子の姉妹という関係です。仲良し姉妹で近くに暮らすことを楽しみにされています。



◀ソーラータウン予定地を上空から撮影

SINKEN STYLE
SOLAR TOWN

戸外の作業も楽しい住まい

まち角も、居間も、デッキもお昼はお母さんたちの憩いの場

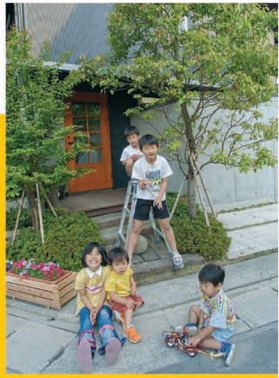
SINKEN STYLE

SOLAR TOWN

住みたい家、住みたい街に暮らす

ここソーラータウンでは、太陽という自然の恵みを生活に取り込もうとしている人、豊かな緑に囲まれた暮らしがしたいと思う人、自然素材でつくった住まいが好きな人たちが集うことになりました。そういう人たちが、街を少しずつ育てていくのです。シンケンはそんな街の理想を「住みたい町」というメッセージにまとめました。時間が経つにしたがって、木々が育ち、人と人との関係が上手に育っていく街になっていって欲しいと願っています。

午後には子どもたちが表へ出て、思い思いに遊び、笑い声がこだまする



住みたい町

私は、家族という
温かい心のより処をもっている
私を含めこの家族は、
日々の暮らしの中で、
たくさんの人とふれあい
支えられて、生きている

だから、もし
私たちがわが家を構えるとしたら、
それは先ず、近隣との程のよい、
良好な関係を望みたい
そして、その町は、
自らが美しいと思える処でありたい

自然の躍動が始まり
心が躍る頃には、
誰が言うともなく
桜の下が宴の席になる
家々は新緑に埋もれ、目にまぶしい

ゆったりした外の空間で、午後の一時を楽しむ

住まいは戸外とやわらかくつながる

ベランダからも元気にあいさつ

年ごとに生長する木々達が、
今年は一段と活き活きと見える
この大木の木陰と
そよ風と、おしゃべりは、
夏一番のぜいたくだ

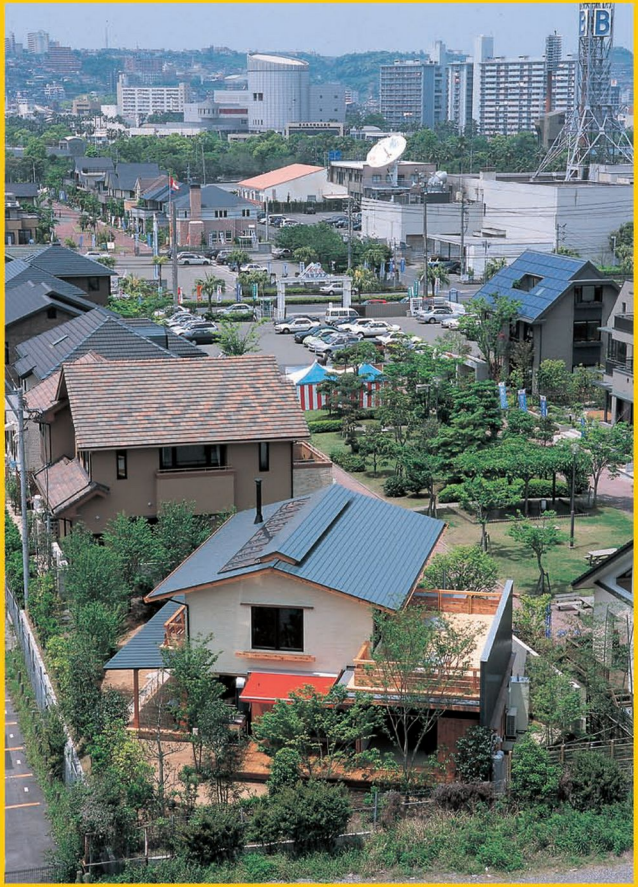
もみじ、イチョウ、ケヤキ、
桜、桂にどんぐり
秋の色に染められたこの町に
落ち葉が舞う様は、巷のうわさとなり、
私たちの自慢のひとつとなるだろう

紅葉が枯れ葉に変わり、
木枯らしの吹く季節には
広場で焼き芋をしよう
子どもたちの思い出づくりになれば、
それもいい

春夏秋冬、
この町には豊かな自然と、
人々の温かい心のふれあいがある
生きることとは、
人と人とのコミュニケーションだ

人間が大好き、
自然が大好きな人たちが集う、
楽しくて、美しい町があったなら、
私はそこに住みたい
そして、その町を育て、慈しみ、
共に成長していきたい

シンケンの住まいを建てる前に



モデルハウス

SINKEN CO.,LTD.

鹿児島市与次郎ケ浜のKTS住宅フェア内に「杉の家」のモデルハウスがあります。杉の家は、素材にこだわりすべて国産材を使ってつくられた、落ち着いた雰囲気の佇まいです。敷地の条件や家族構成によって、一つひとつ違う住まいをつくるのですが、全体の雰囲気、敷地に対する住まいの配置、内部のスペースの取り方、建具やつくりつけの家具のデザインなど、参考にしていただきたいと考えています。

住所　鹿児島市与次郎２丁目
　　KTS住宅フェア内
TEL　099-253-6888

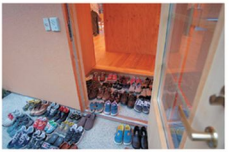
http://www.sinkenstyle.co.jp/

ホームページ

自宅に居ながら、シンケンという会社のこと、LLBの住まいのことなどの情報収集が手軽にできます。2004年1月にリニューアルして情報満載。ここでは、モデルハウスの場所や完成見学会の予定も随時お知らせしています。

また、今までに建てた住まいの写真が次々とでてきて、全体のイメージがつかみやすいスライドショーのコーナーがあったり、シンケンの住まいに5年10年と暮らした方々の感想などもあります。さらに住み手がつくった住まいに関わるホームページにもリンクしているので、家づくりや暮らしの四方山話など、読み物としても楽しめます。

シンケンスタイルWeb
サイトマップ



完成見学会

SINKEN CO.,LTD.

毎月行っている入居前の住まいを見学する機会です。実際にこれから暮らすお宅の、完成直後の現場へ伺います。未だ入居する方が引っ越してはないので、荷物もなく生活感はありませんが、実際の素のままの住まいを見ることができます。等身大の住まいを自分の目で確認し、LLBの住まいの心地よさや、ご家族で暮らすときのシミュレーションをしてみてください。

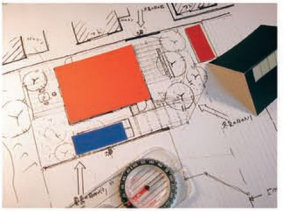
告知　ホームページや『PHP』誌上でご案内、折り込みチラシのお知らせをしています。どなたでも見学できます

バスツアー

SINKEN CO.,LTD.

実際にシンケンの住まいに暮らしている方を訪ねて、住み心地などを聞いたり、話し合ったりする機会です。月2〜3回開催しています。LLBに装備しているソーラーシステムの働きや、それぞれのご家庭の住みこなし術など、現実に即したアイデアやアドバイスが豊富に語られます。よりご自身の住まい観がはっきりし、それぞれの個性にぴったり合った住まいづくりが身近になるでしょう。

お申し込み　営業担当者が参加者を募っています



住まい教室

年5･6回行われる、住まいづくりの基本講座です。この教室には、これから土地を購入しようかと考えている方、プランをある程度進めていらっしゃる方などが参加しています。講座の内容は、住まいに対する考え方を整理したり、資金計画など、具体的な例をあげて、なるべく詳しく説明しています。そして、参加者からの質疑応答もお受けいたします。

この住まい教室には見学会やバスツアーでシンケンスタイルにふれ、さらに自分たちの住まいのイメージを固めるために参加する方が多くいらっしゃいます。実際の建物を見たり、話を聞いたりするうちに、だんだん住まいへの考え方は整理されていきます。

お申し込み　営業担当者が参加者を募っています

建てるのが決まったら

土地測量	・敷地を十分に読み取り、現況と将来の状況を検討する
プラン打ち合わせ	・従来の暮らしぶりを教えていただき、継続して使う家具などの採寸も行う
プラン提案・決定	・スケッチでプランを提案し、あわせて窓の位置や植栽などを確認
建築費用算出・図面作製	・プランが決定後、概算建築費を出し、ウォークスルー作成
家具打ち合わせ	・造り付け家具の寸法や使い勝手をモデルハウスなどで体験しながら決める
建築総費用提示・詳細図作成	・打ち合わせを数回重ねた後、詳細図面を整備。あわせて外構や付帯工事を含めた総予算を提示
工事契約	・仕様書・図面・見積書に基づいて契約を交わす
建築確認申請・設計審査	・建築基準法に基づき、当該行政機関に申請
地鎮祭	
着工	
上棟式	
外構・造園の打ち合わせ	・外回り設備や植栽の最終的な確認
完成	
竣工検査	
引き渡し	
入居	
セントリコン工事	
ハウスケア定期訪問	

住まい建築の流れ

シンケンがいつも行っている家づくりには、だいたい決まった順序があります。土地は決まっているとして、いつプランが決まるのか、どんな時に何を行うのかなど、大まかな家づくりの流れをご紹介します。

月曜早朝のミーティング

シンケンでは毎週1回必ず、全社員が集合してミーティングを行います。一人ひとりが先週取り組んだ仕事を報告しあい、良かったこと、反省すること、悩んでいることなど、得られた知識や問題意識を共有するのです。全員のミーティングが終わったら、各セクションごとのミーティングも始まります。毎週5時間以上の話し合いとなりますが、こうしたコミュニケーションが、社内の共通認識を培い、お客さまの信頼を得るのに役立っているのです。

竣工建物社内検査

月平均に6棟が竣工するシンケンでは、工事が完了すると、社員の技術向上もかねて、社内検査を行っています。ここでは、設計や工事監理、営業など20人前後の社員が集まり、担当者の案内のもとで、施工で工夫した点、新たに導入した設備の検査など、具体的に解説し、いろいろな角度の質問も受けます。このような現場での研修や実地検査は、次の現場に生かされていきます。

月曜日の全体ミーティング

早朝の社内検査

仕事内容を発表するスタッフ

担当者がサッシの調整について説明しているところ

建てた後は

日本には北海道の一部を除く全土にシロアリが生息しています。特に被害が深刻になりやすいイエシロアリは、九州・四国の沿岸地域と関東までの太平洋岸に分布し、木材だけでなく、生きている樹木やプラスチック、繊維や革類なども食べる旺盛な食欲をもっています。したがって昔から住まいには、当然のように防

継続した定期訪問・点検で住まいの安全と環境を守る

私たちは、住環境を末永く見守る
「住まいのドクター」です。
シロアリの被害をはじめ、
様々な障害から住まいを守り、
安全で快適な暮らしをお手伝いします。

HOUSE CARE

http://www.house-care.co.jp/

人に、自然に、住まいにやさしく

薬をまかない白アリ防除法セントリコン*・システムと住まいのアフターケア

株式会社ハウスケア
〒890-0056鹿児島市下荒田4丁目49-23
TEL.099-812-8348 FAX.099-812-8358
フリーダイアル.0120-025-803

シロアリ防除の新管理システム
セントリコン*・システム

*ダウ・アグロサイエンス商標

建物の周囲にシロアリの好む木材の入ったエサ場「ステーション」を設置します。

専門の技術者が定期的に訪問し、調査・点検を行います。

シロアリがエサ木にヒット(発生)!!

シロアリを発見してはじめて薬剤(脱皮阻害剤)を投与し、食べさせます。

蟻処理が行われていたのですが、その多くが農薬を床下に撒くといった方法でした。しかも、この農薬は通常田畑で使われる数百倍もの量で、住んでいる人、作業する人の健康をも損ねる事例が数多く報告されているのです。

シンケンが採用している防蟻方法はセントリコン・システムといって、従来の農薬散布とはまったく異なった方法です。具体的には、建物周辺の数か所にエサとなる木材の入った筒を地中にセットし、定期的にその機器のチェックします。シロアリがいてもいなくても、年6回以上、通常10回程度点検に伺います。

このチェックで、シロアリが発見されて初めて薬剤を使うことになります。その時使うヘキサフルムロンという薬剤は、シロアリが好んで食べるようにつくった脱皮阻害剤で、シロアリはそれを巣に持ち帰り、他のシロアリにも分けて食べさせます。薬剤を体内に吸収したシロアリは、成長に必要な脱皮ができなくなり、結局巣本体を全滅状態に追い込むことになるのです。

このセントリコン・システムは、米国で開発され、世界14か国で採用されています。そして環境に優しいシロアリ防除方法として、米国政府から環境栄誉賞が贈られました。

シンケンの住まいでは、このシステムを採用することで、専門の技術者が定期的に訪問し、セントリコンをチェックします。それと同時に、建てた後の住まいのアフターケアを行い、住み手が快適に、そして安心して暮らせるようにお手伝いしています。

ハウスケアのスタッフは、お客さまとのコミュニケーションをとりながら、ステーションの点検をします。さらに建物のメンテナンスなど、住まいのアフターケアについての相談も、たまわっています。

幼稚園で行われた埋設工事

シロアリ防除の資格をもったスタッフが点検・管理

東谷山
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

ワゼットスタイル
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

市来
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

妙円寺
殿様さまが見た
SINKEN
STYLE

ひまわり台
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

松元
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

吉野
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

シンケンスクエア
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

モデルハウス
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

与次郎ヶ浜
お陽さまが見た
SINKEN
STYLE

お陽さまが見た

SINKEN STYLE

SINKEN CO.,LTD.

株式会社 シンケン

本社・シンケンスクエア：
〒890-0056鹿児島市下荒田4-49-22
TEL.099-286-0088 FAX.099-259-8088
URL http://www.sinkenstyle.co.jp/

シンケンワークス：
〒892-0871鹿児島市吉野町3506
TEL.099-244-2258 FAX.099-244-3133

モデルハウス：
〒890-0062鹿児島市与次郎2丁目KTS住宅フェア内
TEL.099-253-6888

LONG LIFE BOX

SINKEN STYLE Concept Book

日本のベーシックハウスを考える

2004 Summer no.2

発行人：迫英徳
発行：株式会社シンケン
編集：西山麻夕美
編集協力：長町美和子
写真：北田英治／株式会社シンケン
アートディレクション：春井裕
デザイン：有限会社ペーパースタジオ
印刷：三共グラフィック株式会社
トレース、イラスト：株式会社ファクトリーウォーター

＊無断で本書の全部、または写真・文を転載することを禁じます。
©株式会社シンケン

掲載協力
＊本書を制作するにあたり、以下の方々に協力いただきました。
Wazett style（西中間剛様）／内野和久様／カジキ商店（加治木徳三様）／平山久真様／前田大蔵様／栫信一朗様／久保英明様／秋窪知博様／登山倫政様／森田秋則様／平島忠久様／小正好人様／柳田健一様／栫井秀雲様／永田晋一様／久保田昌一様／吉岡孝樹様／彦坂明夫様／西原寛人様／田嶋一樹様／千足耕一様／前田宣久様／右田郁雄様／中澤良次郎様／宇都和見様／宇都修一様／吉嶺明人様／福元幸一様／平井仁様／川上真一様／桑水流淳二様／後藤広二様／若松秀徳様／下笠聡様／白濱重則様／別府勝宏様／中尾研作様／白金酒造株式会社様

ISBN978-4-9900793-1-4

C0052 ¥952E

9784990079314

1920052009525

LONG LIFE BOX

2004 Summer no.02

発売：
株式会社シンケン
〒890-0056
鹿児島市下荒田4-49-22
TEL.099-286-0088
FAX.099-259-8088
http://www.sinkenstyle.co.jp/

頒布価格：
1000円（税込み）

SINKEN CO.,LTD.